marantz®

Model PS7300 取扱説明書

AV Surround Amplifier

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されおりますが、ご不審な箇所などがありましたら、お早めにお買い上げ店、または最寄りの日本マランツ(株)各営業所にお問い合わせください。

本機の主な特長

電流帰還(カレントフィードバック)6チャンネル ディスクリートパワーアンプ

- マランツ ピュアオーディオアンプで定評の電流帰還型回路をパワーアンプ部に採用し、全6チャンネル同一パフォーマンスのハイパワー・ワイドレンジ・ディスクリート・パワーアンプ搭載。

最新サラウンドデコーダーをフル搭載

- 6チャンネルパワーアンプを強力にサポートする 6.1ch サラウンドフォーマットをフル対応。
- ドルビー ラボラトリーズが新たに規定した「ドルビーデジタルEX」、および「ドルビープロロジック Ⅱ」、音楽再生などで評価の高いSRS社 CS5.1を更に改良し6.1チャンネル化した「CS Ⅱ」、DTS社の提唱する「DTS-ESディスクリート6.1」、「DTS-ESマトリクス6.1」、2チャンネル信号を6.1チャンネル化する「DTS-Neo6」、DVD-Audioの新フォーマットに追加された「DTS96/24」、またBSデジタルの5.1チャンネルフォーマットの「MPEG2ーAAC」にも対応します。

スーパーオーディオ(SACD/DVD-AUDIO)対応7.1CH INPUT

- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を備え、SACDやDVDオーディオのマルチチャンネル再生に対応し、将来の拡張性を高めています。

ソフトウェア アップグレード対応

- 将来のフォーマット追加への対応や機能アップなどに備え、RS232C端子よりソフトウェアアップグレード対応設計がされております。

その他の特徴

- 32bit 最新DSPを搭載。
- 192kHz/24bit DAコンバータを全チャンネルに採用。
- 192kHz/24bit ADコンバータをアナログ入力用に採用。
- 音楽再生時に映像出力を停止させる、ビデオ オフ モード。
- 映画館と家庭環境での周波数特性を補正する、HT-EQ機能。
- J.E.C.S(JOINTED-EXTRUSION-COOLING-SYSTEM)は新たに採用したヒートシンクで従来のタイプと比較し、不要振動を制圧します。
- 7.1チャンネルダイレクト外部入力端子を有功活用できるAUX2入力。
- L/R 2チャンネルスピーカーでもサラウンド効果を楽しめる バーチャルサラウンド機能。
- ゲーム機やポータブル機器の接続に便利なフロント光デジタル入力端子。
- 広帯域コンポーネント ビデオセレクター。
- 他の部屋でもステレオ再生が可能な マルチルーム機能。
- TV信号入力で電源をON/OFFする TVオートパワー機能。
- 各種設定をOSD画面にておこなえるOSDメニューシステム。
- 確実なスピーカー結線が可能な 全チャンネル大型スクリュー式スピーカーターミナル。
- L/Rスピーカーを選択可能な スピーカーA、B切り替え。
- LCD搭載、マクロ機能付きラーニングリモコン。
- 環境に配慮したスタンバイ消費電力低減モード。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



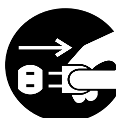
警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



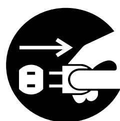
△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。



警　告



● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。



電源プラグをコンセントから抜け

● 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

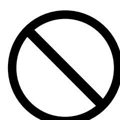


● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

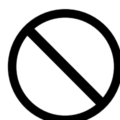


● 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。



接触禁止

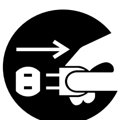
● 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



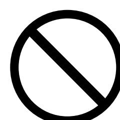
● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



● 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

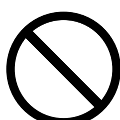


● この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や低部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。

この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。



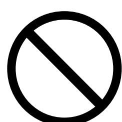
● この機器を設置する場合は、壁から2.5cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2.5cm以上、背面から2.5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。



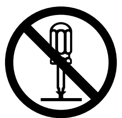
● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



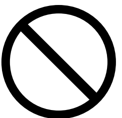
警　告



- この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



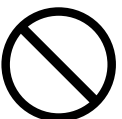
- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



注　意



- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



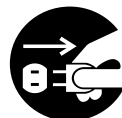
- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- ディスクの再生する前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、またはテレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみなる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。



- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



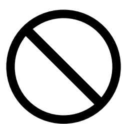
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

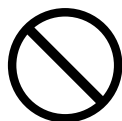


- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

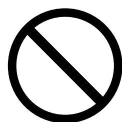

注　意



● 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



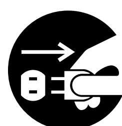
● 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス⊕端子とマイナス⊖端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



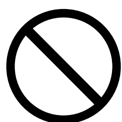
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



● 長期間使用しないときは、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池室についた液をよく拭き取ってから新しい電池をいれてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



● 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、ProLogic及びダブルD記号及び"AAC"ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。





SRS CS IIと(●)記号は米国と選択された諸外国におけるSRS Labs, Inc.の商標です。SRS CS II技術は、SRS Labs, Inc.からのライセンスにより製品化されています。



DTSおよびDTS Digital Surroundは、Digital Theater System, Inc.の登録商標です。





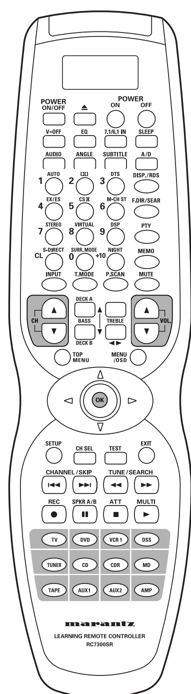


付属品の確認

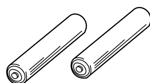
下記の付属品が揃っていることを確認してください。

もし、不足している物がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社営業所にお問い合わせください。

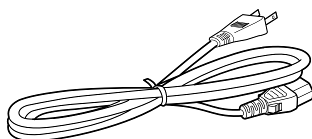
リモコン（RC7300SR）



単 3 形乾電池　2個



電源ケーブル　1 本



保証書　1 部

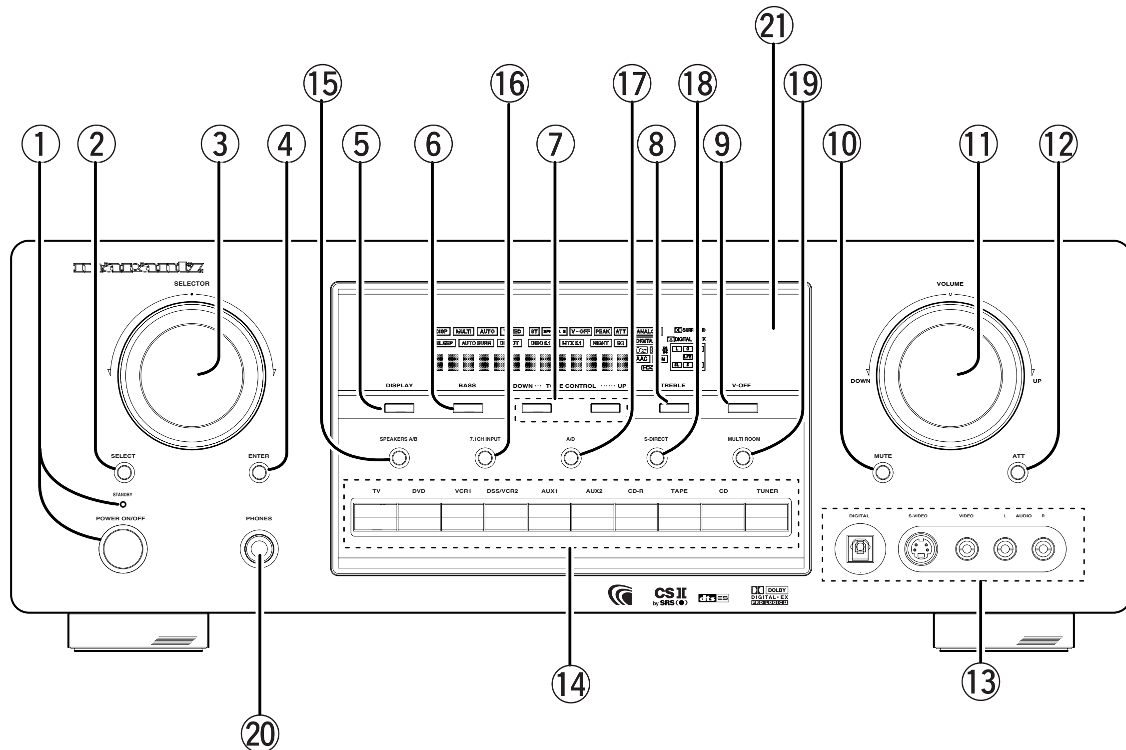
愛用者カード　1 枚

取扱説明書（本書）　1 冊

目　次

各部の名称はたらき

フロントパネル



① POWER(主電源)"入/切"スイッチ・STANDBY(スタンバイ)表示インジケーター
このスイッチを押すと、本機の主電源が入ります。もう一度押すと主電源が切れます。主電源が入っている状態にてリモコンによるパワーオン/スタンバイの切り替えが可能です。本機が電源スタンバイ状態の時にSTANDBY インジケータが点灯します。

② SELECT(マルチファンクションモードセレクト)ボタン
本ボタンを押してセレクターダイヤルによる各種設定機能を変更します。

③ SELECTOR(サラウンドモード、マルチファンクションコントロール)ダイヤル
サラウンドモードの切り替えやセットアップの設定に用います。

④ ENTER (エンター)ボタン
セットアップの設定時の確定に用います。

⑤ DISPLAY(ディスプレイモード切り替え)ボタン
前面ディスプレイの表示動作の切り替えに使用します。
(28 ページ参照)

⑥ BASS(トーンコントロール)切り替えボタン
トーンコントロールの動作切り替えで、BASS(低音)のコントロールをする場合に使用します。(23 ページ参照)

⑦ ◀ (UP) / ▶ (DOWN) ボタン
トーンコントロールレベルの調整やSETUP時の設定切り替えに使用します。(23 ページ参照)

⑧ TREBLE(トーンコントロール)切り替えボタン
トーンコントロールの動作切り替えで、TREBLE(高音)のコントロールをする場合に使用します。(23 ページ参照)

⑨ V-OFF (ビデオOFF)ボタン
全てのビデオ信号出力端子のビデオ信号出力を停止状態にする(VIDEO-OFF)モードの切り替えに使用します。(28 ページ参照)

⑩ MUTE(ミュート)ボタン
このボタンを押すとスピーカーやヘッドホンから出力される音が一時的に消えます。もう一度押すと元の音量に戻ります。(24 ページ参照)

⑪ VOLUME(音量調整)ツマミ
全体の音量調節に使用します。右に回すと音量が大きくなります。左に回すと音量が小さくなります。

⑫ ATT(アッテネーター)ボタン
アナログ入力信号のレベルを下げる時に使用します。(28 ページ参照)

⑬ AUX 1 入力端子
ビデオカメラ、ゲーム機等の接続に使用可能です。

⑭ INPUT SELECTOR
（入力ファンクション 切り替え）ボタン
入力ソースを選択する時に使います。
ビデオ系（TV、DVD、VCR1、DSS／VCR2、AUX1）の入力ソースを選んでから、オーディオ系（CD、TAPE、CDR/MD、TUNER）の入力ソースを選ぶと、ビデオ系の映像とオーディオ系の音声を同時にお楽しみいただけます。（23 ページ参照）

⑮ SPEAKERS A/B （スピーカー A/B）ボタン
スピーカーシステム A、B、AとB同時、スピーカーOFFを選ぶときに使用します。（30 ページ参照）

⑯ 7.1CH-IN ボタン
7.1CH入力を選択する時にボタンを押します。もう一度押すと、切り替える前に選択していた入力ソースに戻ります。（30 ページ参照）

⑰ A/D（アナログ／デジタル切り替え）ボタン
音声入力信号の「アナログ入力」または「デジタル入力」の切替えに使います。

ご注意
このボタンはシステムセットアップでアナログ入力に設定されている入力ソースには働きません。（29 ページ参照）

⑱ S-DIRECT （ソースダイレクト）ボタン
このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする「ソースダイレクト」モードになります。

ご注意
ソースダイレクトモードにすると、サラウンドモードは自動的にAUTOに切り替わります。
ソースダイレクトモードを解除するには、本体またはリモコンを使って他のサラウンドモードを選びます。ソースダイレクトモードにすると、各スピーカーのサイズは自動的に以下のように固定されます。

FRONT（フロント）= LARGE
CENTER（センター）= LARGE
SURROUND（サラウンド）= LARGE
SUBWOOFER（サブウーファー）= ON

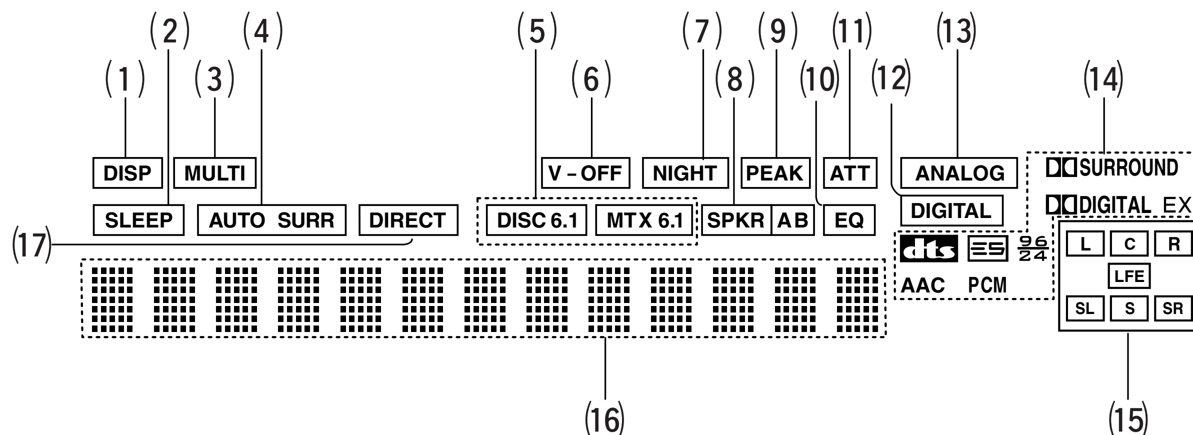
⑲ MULTI （マルチルーム）ボタン
マルチルーム機能の動作切り替えに使用します。（31ページ参照）

⑳ PHONES端子（ヘッドホン端子）
ヘッドホン用の接続端子です。この端子にヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は自動的に無音になります。

ご注意
ヘッドホンをご使用の場合、サラウンドモードは自動的にSTEREO（ステレオ）に切り替わります。ヘッドホンをPHONES端子から外すと、ヘッドホンを接続する前に設定していたサラウンドモードに戻ります。（28ページ参照）

㉑ リモコン受光部
付属リモコンからの赤外線コントロール信号を受光します。

表示部



⑴ DISP（ディスプレーOFF）表示
表示部が消灯（ディスプレイオフ）状態のときに点灯します。（28ページ参照）

⑵ SLEEP（スリープタイマー）表示
スリープタイマー機能を使用しているときに点灯します。（24ページ参照）

⑶ MULTI（マルチルーム）表示部
マルチルーム機能が動作している場合に点灯します。（31ページ参照）

⑷ AUTO SURROUND （オート・サラウンドモード）表示
AUTO SURROUND（オートサラウンド）モードが使用されているときに点灯します。

⑸ DTSーES デコードモード表示
DTS-ESデコード動作モード（Discrete-6.1かMatrix-6.1）を表示します。

⑹ V-OFF（ビデオ オフ）表示
ビデオオフ機能が動作している場合に点灯します。（28ページ参照）

⑺ NIGHT（ナイトモード）表示
NIGHT モードを機能させた場合に点灯します。（24ページ参照）

⑻ SPKR（スピーカー） AB表示
選択しているスピーカーシステム（AまたはB）を表示します。
スピーカー オフ時はA、Bとも消えます。（30ページ参照）

⑼ PEAK（ピーク）表示
アナログ入力を選択時、入力信号が過大レベルの場合点灯します。この場合、アッテネーター機能を働かせて下さい。（28ページ参照）

⑽ EQ（ホームシアターイコライザー）表示
HT-EQ（ホームシアターイコライザー）機能が動作しているときに点灯します。（30ページ参照）

⑾ ATT（アッテネーション）表示
アッテネーション機能が働いているときに点灯します。（28ページ参照）

⑿ DIGITAL（デジタル）入力表示
デジタル入力ソースが選ばれているときに点灯します。

⒀ ANALOG（アナログ）入力表示
アナログ入力ソースが選ばれているときに点灯します。

⒁ デジタル信号フォーマット表示部
デジタル入力を選択している場合に、入力されている信号のフォーマットを点灯表示します。

- DDIGITAL：ドルビーデジタル信号が入力されている場合に点灯します。
- DDSURROUND：入力信号がドルビーデジタル信号で、かつサラウンド処理をされている場合に点灯します。
- dts：dts信号が入力されている場合に点灯します。
- ES：dts-ES処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
- 96/24：dts-96/24処理が施されたdts信号が入力されている場合に点灯します。
- PCM：PCM信号が入力されている場合に点灯します。
- AAC：MPEG2－AAC信号が入力されている場合に点灯します。

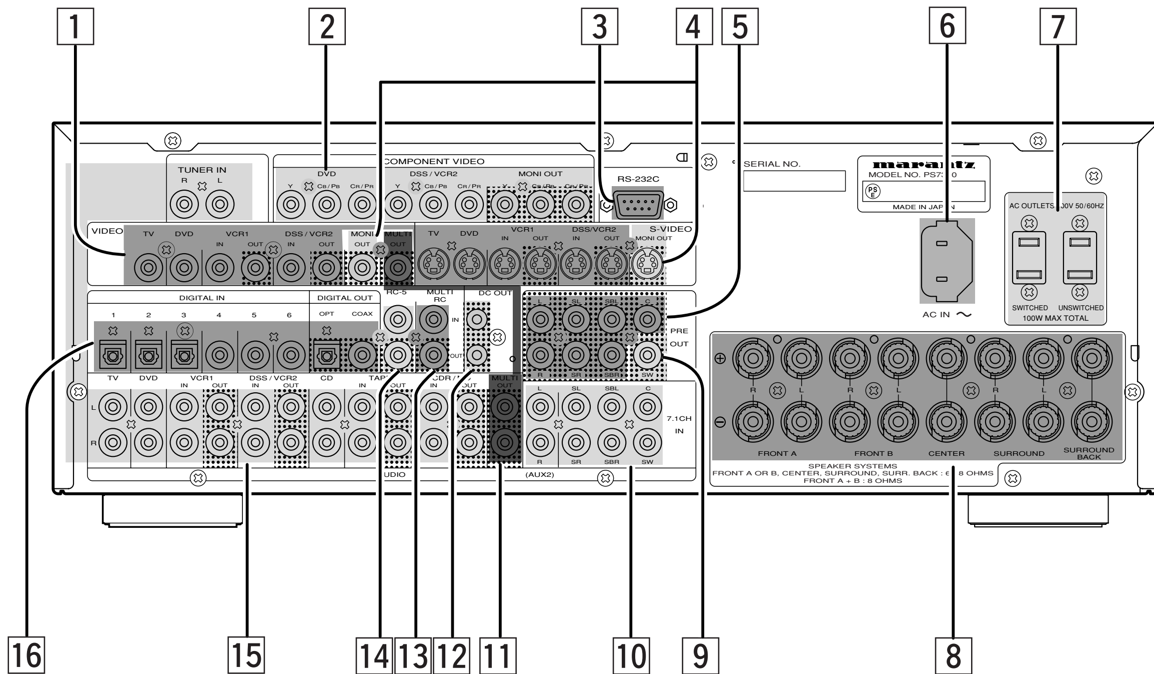
⒂ プログラムチャンネル表示
デジタル入力信号を再生時、入力信号の記録チャンネル数を表示します。
5.1ch信号入力時は **L, C, R, SL, SR, LFE** が点灯します。
2ch信号が入力された場合は **L, R** が点灯します。詳細は、27ページのサラウンドモード/入力信号対応表をご覧下さい。

⒃ 選択入力、サラウンドモード表示部
選択した入力ファンクションや、サラウンドモード等を表示します。

⒄ DIRECT（ダイレクト）表示
ソースダイレクトモードを選択している場合に点灯します。

背面パネル

「各機器との接続」(10〜15ページ)の接続例を参照しながらご利用下さい。



1 映像信号用端子 (ビデオ信号入出力・S-Video 信号入出力)

本機は、背面に4系統の映像入力と2系統の映像出力を装備しています。(13ページ参照)

入力端子

映像機器(TVチューナー、DVDプレーヤー、VCR等)のビデオ信号・S-Video出力(PLAY)端子に接続します。

出力端子

録画用映像機器(VCR等)のビデオ信号・S-Video入力 (REC)端子に接続します。

2 コンポーネントビデオ信号入出力端子

(13ページ参照)

入力端子

本機の入力端子と映像機器(TVチューナー、DVDプレーヤー)のコンポーネントビデオ信号出力端子に接続します。

出力端子

本機のモニターOUTをTVやプロジェクターのコンポーネントビデオ信号入力端子へ接続します。

3 RS232C端子

将来に向けてソフトウェアのアップグレードや外部コントロールシステムの接続用に使用します。

4 モニター用映像出力端子 (ビデオ信号出力、S―Video信号出力)

テレビやプロジェクターのビデオ入力端子やSビデオ入力端子に接続します。本機は、ビデオ出力端子とSビデオ出力端子を各1系統装備しています。(13ページ参照)

5 プリアンプ出力端子(L, R, C, SL, SR, SBL, SBR)

音声各チャンネルのプリアンプ出力端子です。外部パワーアンプを追加する場合に使用します。(11,14ページ参照)

6 ACケーブル接続端子

付属のACケーブルを接続し、家庭用AC 100V(50/60Hz)のコンセントに電源プラグを挿し込みます。

万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

7 ACアウトレット(SWITCHED & UNSWITCHED)

本機のACアウトレットから他のAV機器に電源を供給できます。本機はSWITCHEDとUNSWITCHEDのACアウトレットを装備しています。

SWITCHED (スイッチド)

本機の電源ON／スタンバイに連動し、電源供給をON／OFFします。消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

UNSWITCHED (アンスイッチド)

本機の電源ON／スタンバイに関係なく、電源供給をします。消費電力が最大100Wまでの機器を接続できます。

⚠ 警 告

絶対許容電力以上の機器を接続しないで下さい。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。

8 スピーカー出力端子（L, R, C, SL, SR, SB）
各チャンネル（フロントL、フロントR、センター、サラウンドL、サラウンドR、サラウンドバック）のスピーカーに接続します。（11ページ参照）

9 サヴウーファー用出力端子
サブウーファー用プリアンプ出力です。サブウーファー用の外部パワーアンプもしくはアンプ内蔵サブウーファーに接続します。（11,14ページ参照）

10 7.1ch 音声入力端子（AUX2音声信号入力）
SACDマルチチャンネルプレーヤーやDVDオーディオプレーヤーのマルチチャンネル音声出力端子に接続します。（14ページ参照）
フロントL/RはAUX2入力としても使用可能です。

11 マルチルームシステム用出力端子（ビデオ & オーディオ）
マルチルームシステム（別室）側のTVのビデオ信号入力端子、アンプ等のアナログオーディオ信号入力端子へ接続します。（15ページ参照）

12 DCトリガー出力端子
将来に向けてのDC信号トリガー出力端子です。

13 マルチルームシステム用コントロール入出力端子
将来に向けてのマルチルームシステム（別室）コントロール用の入力端子です。（15ページ参照）

14 リモコン入出力端子
他のマランツAV製品と組み合わせてシステムコントロールする場合に、組み合わせる製品のリモコン入出力端子と接続します。（12ページ参照）

15 オーディオ信号用端子（アナログ音声信号入出力）
AV機器のアナログ音声信号入力／出力端子と接続します。本機は、7系統の音声入力と4系統の音声出力を装備しています。（12ページ参照）

入力端子
再生機器（CDプレーヤー、カセットデッキ、MDプレーヤー、TVチューナー、DVDプレーヤー、VCR等）のアナログオーディオ信号出力（PLAY）端子に接続します。

出力端子
録音用機器（カセットデッキ、MDプレーヤー等）や録画用機器（VCR等）のアナログオーディオ信号入力（REC）端子に接続します。

16 デジタル入力端子1-9、出力端子（光入出力 & 同軸入出力）
（12ページ参照）

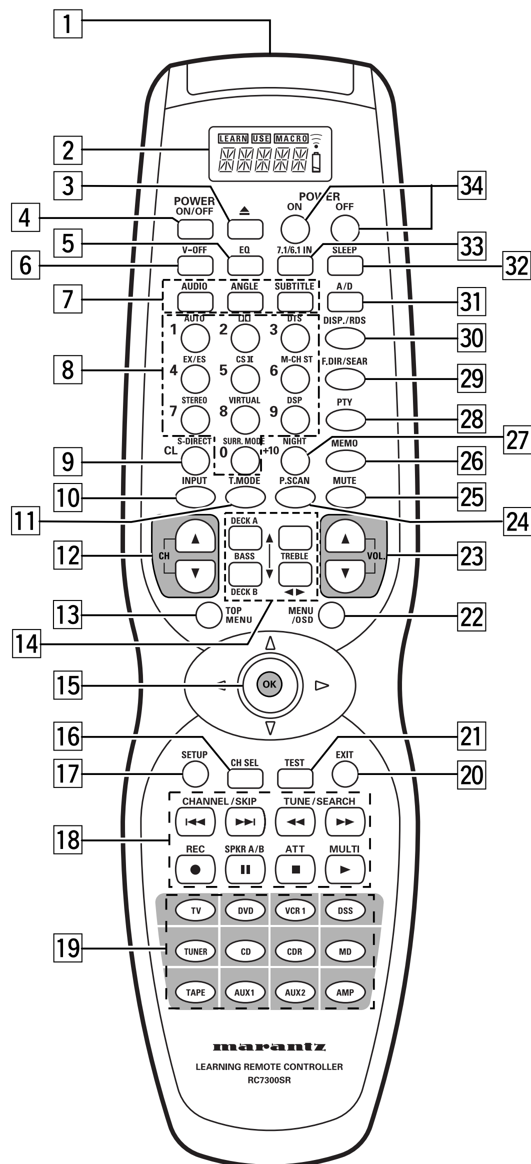
入力端子
デジタル機器（DVD,CD,MD,BSチューナー等）のデジタル信号出力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。また、OSDメニューシステムのINPUT SETUPにて必ず設定をおこなって下さい。（16ページ参照）

出力端子
デジタル録音機器（CD-Rプレーヤー、MDプレーヤー等）のデジタル信号入力端子に接続します。接続する機器の出力端子の種類に合わせて使用して下さい。

リモコンRC7300SR

本章では付属のリモコンRC7300SRについて説明します。
付属リモコン RC7300SRは、学習機能によって本機以外のAV機器も操作できるリモコンです。
付属リモコンのファンクション切り替えボタンを押すと、選択したファンクションの機器の操作ができます。

名称と機能



1 送信／学習用赤外線受光部

ここから赤外線コントロール信号を送信／受信します。
操作する機器の受光部に向けてボタンを押してください。
他のリモコンからリモコンコードを学習するときにも、ここに向けて行います。

2 LCD表示

本リモコンにて選択されている DVD、TV などのファンクション名を表示します。

3 OPEN/CLOSEボタン

PS7300の操作には使用しません。
DVD、CDプレーヤー等のトレイの開閉に使用します。

4 POWER ON/OFFボタン

アンプ、DVDプレーヤー等の機器の電源を単独にON/OFFするときに使います。

5 EQ(HT-EQ)ボタン

AMPモード状態で、HT-EQ(ホームシアターイコライザー)のON/OFF切り替えに使用します。

6 V-OFF(ビデオ オフ)ボタン

AMPモード状態で、ビデオ オフ機能の動作切り替えに使用します。

7 DVD操作ボタン

基本的にPS7300の操作には使用しません。
但しAMPモード状態で、AUDIOボタンはAAC二カ国語放送時に主音声、副音声の切り替えに使用することができます。

8 サラウンドモード／10キー ボタン

AMPモードになっているときには､サラウンドモードの切り替えができます。
他の場合、各機器に有効な0〜9の信号を送る時に使います。

9 S-DIRECT/CLEARボタン

AMPモードになっているときに､このボタンを押すと、トーンコントロール回路などをバイパスする｢ソースダイレクト｣モードになります。
他のモードの場合、各機器のメモリーやプログラムを消去するクリアボタンとして使用できます。

10 INPUTボタン

PS7300の操作には使用しません。
TVなどの入力切り替えに使用します。

11 T-MODEボタン

PS7300の操作には使用しません。
チューナーなどにて受信モードの切り替えなどに使用できます。

12 CHボタン

PS7300の操作には使用しません。
TVのチャンネルのアップ・ダウンをします。

13 TOP MENUボタン

PS7300の操作には使用しません。
DVDプレーヤー等にてトップメニューを表示させる場合に使用します。

14 BASS 、TREBLEボタン

AMPモードになっているときに､PS7300のBASS(低音域)、TREBLE(高音域)の調整をするときに使います。
+/- 6段階まで調整ができます。

⑮ カーソルボタン
AMPモード状態にて､これらのボタンはセットアップメニュー機能を操作するときに使用します。

◄ ： カーソルを左に移動します。
► ： カーソルを右に移動します。
▲ ： カーソルを上に移動します。
▼ ： カーソルを下に移動します。
OK： セットアップメニューに入る、または設定を確定します。

⑯ CH SELボタン
AMPモードになっているときに､PS7300の各出力チャンネルのレベル調整をしたい時に使用します。SURROUND（サラウンド）セットアップメニューを呼び出します。

⑰ SETUPボタン
このボタンはセットアップメニュー機能に入るときに使用します。

⑱ 再生コントロール ボタン
AMPモードではPS7300の以下の操作ができます。

SPKR A/B： PS7300のフロントスピーカA、B切り替えに使用します。
ATT： アナログ入力時に入力レベルを減衰させる場合に使用します。
前面ディスプレー内のPEAK、インジケーターが点灯する場合、本機能を使用してください。
MULTI： PS7300のマルチルーム機能のON/OFF切り替えに使用します。

AMP以外のモードにおいて...
これらのボタンはDVDプレーヤーやCDプレーヤー、カセットデッキなどの製品を操作するときに使用します。
これらのボタンの機能は、選択したファンクションボタンによって決まります。

⑲ 入力ファンクションボタン
PS7300の入力ファンクションを選択するときに使います。また押した機器の操作ができるようにリモコンの動作状態が変わります。
このリモコンで12種類の機器をコントロールできます。
- アンプの入力セレクターを切り替えるときには、対象のボタンを2秒以内に2回押してください。（AMPのボタンは本機の機能の切り替えだけで､信号は送信されません。）
- またこれらのボタンはマクロボタンとしても使用できます。マクロとは複数のボタン操作を1ボタンで連続的に行なう機能のことです。1つのボタンに最大10通りの操作をプログラムする事ができます。

⑳ EXITボタン
AMPモード状態にて､このボタンはセットアップメニュー機能から通常の表示に戻るときに使用します。

㉑ TESTボタン
AMPモード状態にて､各スピーカー間の出力レベル（音量）を調整するときに使用します。
- SPEAKER LEVEL（スピーカーレベル）セットアップメニューを呼び出します。
- AMP（アンプ）ボタンを押してリモコンをAMP状態にしてから、このボタンを押します。
- テスト信号出力中にもう一度このボタンを押すと、テスト信号の出力が停止します。

㉒ MENU/OSDボタン
AMPモード状態で、PS7300の基本状態をOSDインフォメーションにて確認したい場合使用します。
他のモード状態では、MENUなどの表示に使用します。

㉓ VOLボタン
AMPモード状態にて､これらのボタンは、PS7300による全体の音量調整に使います。

㉔ P-SCANボタン
PS7300の操作には使用しません。

㉕ MUTEボタン
AMPモード状態にて､このボタンを押すと、一時的に音声出力を停止します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

㉖ MEMOボタン
PS7300の操作には使用しません。
AMPモード以外で各機器のメモリーやプログラムをするときに使います。

㉗ NIGHTボタン
AMPモード状態にて､このボタンを押すと、再生音のダイナミックレンジを押さえ、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくできます。夜間に映画ソフトなどをお楽しみいただく際に便利な機能です。

㉘ PTYボタン
PS7300の操作には使用しません。

㉙ F-DIRボタン
PS7300の操作には使用しません。

㉚ DISPボタン
AMPモード状態でPS7300の前面ディスプレイの表示モードの切り替えに使用します。

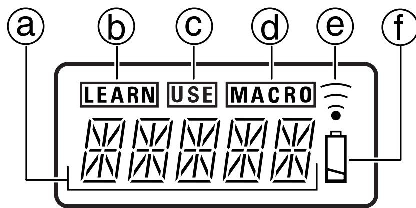
㉛ A/Dボタン
AMPモード状態にて､このボタンをアナログ入力とデジタル入力の切替えに使用します。
デジタル入力を設定している入力ファンクションにのみ有効です。

㉜ SLEEPボタン
AMPモード状態にて､このボタンは｢スリープタイマー｣の設定に使用します。

㉝ 7.1 CH INボタン
AMPモード状態にて､7.1CH-INPUTの選択および解除に使用します。

㉞ POWER ON、POWER OFFボタン
PS7300の電源ONやスタンバイの切り替えに使用します。

リモコンLCD表示部



ⓐ ファンクション表示
選択されたリモコン動作ファンクション名が表示されます。

ⓑ LEARN表示
リモコンが学習状態になっているときに表示します。メモリーを消去するときも表示されます。

Ⓒ USE表示
学習させたコードを出力する状態の表示です。通常はこの状態で使用します。

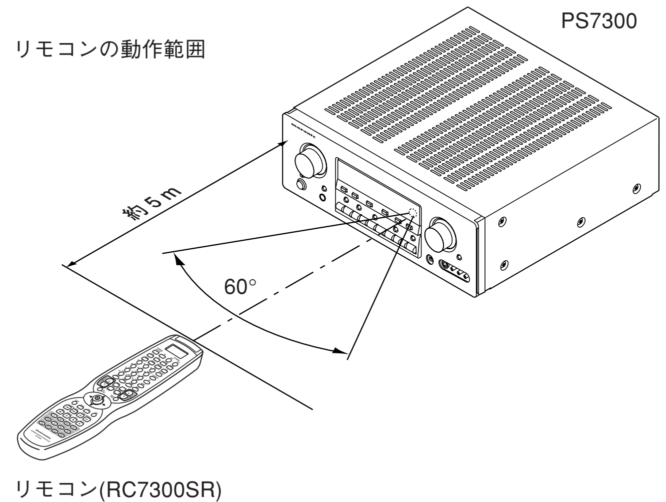
ⓓ MACRO表示
リモコンがマクロの学習状態になっているときに表示します。

ⓔ 送信表示
リモコンコードを送信している間、この表示が点灯します。

ⓕ バッテリー警告表示
乾電池が消耗してくると点灯します。この表示が点灯すると新しくコードを学習したり、マクロの動作などは使用できなくなります。
通常使用は可能ですが 早めに新しい電池に交換してください。

リモコンの動作範囲

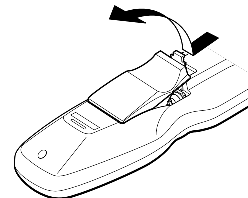
本機 PS7300と付属リモコンRC7300SRによる操作可能範囲は下図のように約5m以内です。
リモコンの操作はPS7300のリモコン受光部に向けて行ってください。また、リモコンとPS7300の間に障害物がある場合、正常な動作ができない場合があります。



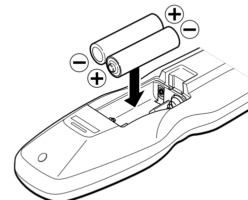
リモコンへの電池の装着

付属リモコンをご使用になる前に、単三乾電池 2本をリモコンに装着してください。
付属の乾電池はリモコンの初期動作確認用です。

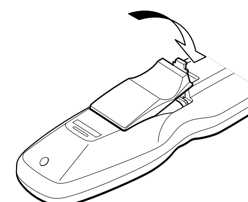
1. **リモコン裏面の電池フタのつまみを矢印の方向につまみ、上に引き揚げます。**



2. **新しい単三乾電池2本を、極性表示(＋：プラスと－：マイナス)に注意し、表示通りに正しく装着します。**



3. **電池ふたを元の位置にセットし、矢印の方向へ押して閉めます。**



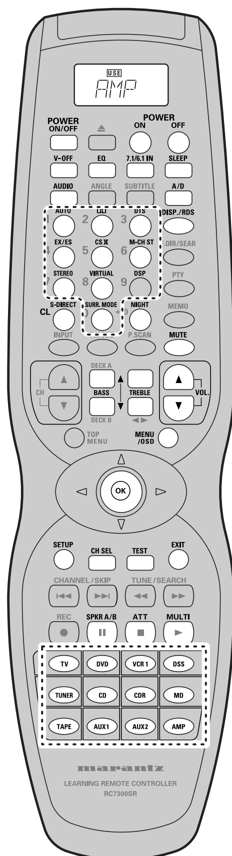
ご注意

- 本リモコンでは不揮発性メモリーを使用していますので完全に電池が消耗しても、プリセットされたRC-5コードやマクロプログラム，及び学習したコードは失われません。

リモコンを使ってPS7300を操作する

付属リモコンRC7300SRを使用してPS7300を操作するには、入力切り替え／ファンクションボタンでAMP（アンプ）を選びます。
AMP（アンプ）モードの詳細については以下を参照してください。

AMPモード



POWER ON/OFF	PS7300の電源オン／スタンバイの切り替え
POWER ON	PS7300の電源オン
POWER OFF	PS7300のスタンバイ
V- OFF	ビデオ オフモードの切り換え
EQ	HT-EQ（ホームシアターイコライザー）のオン、オフ
7.1CH IN	7.1チャンネル インップトのオン、オフ
SLEEP	スリープタイマー機能を設定
AUDIO	AACニカ国語再生時の、音声切り替え
A/D	デジタル入力、アナログ入力の切り替え
サラウンドモード（0—9）	サラウンドモードの選択
S-DIRECT	ソースダイレクトモードの選択
NIGHT	ナイトモードのオン、オフ
MUTE	一時的に音声出力停止、および解除
BASS ▲▼	低音域の調整
TREBLE ▲▼	高音域の調整
VOL ▲▼	全チャンネルの音量の調整
MENU/OSD	現状の動作状態をOSDに表示させる。
OK	セットアップメニューでの設定確定
カーソル	セットアップメニューにおいて設定のためのカーソル移動
SETUP	セットアップメニューへ入る
CH.SEL	各チャンネルレベルの設定用にサラウンド セットアップ画面に入る
TEST	テスト信号を用いた、 スピーカーレベルの設定用にスピーカーレベルセットアップ画面に入る
EXIT	セットアップメニューから出てもとに戻る
SPKR A/B	フロントスピーカー A,Bの選択
ATT	アナログ入力信号レベルの減衰。
MULTI	マルチルーム機能のオン、オフ
入力ファンクション	PS7300の入力機器の選択

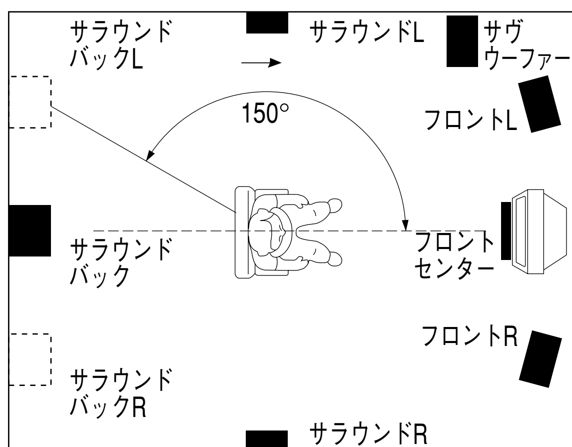
各機器との接続

スピーカーの配置

本機における理想的なサラウンド再生スピーカーシステムは　フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバック、サブウーファーの合計7チャンネルです。
しかし、サラウンド再生に最低限必要なスピカーシステムはフロントL/R、サラウンドL/Rです。この場合ドルビーデジタルEXやDTS-ESの再生はできません。
本機では使用するスピーカーの数や位置、また低音域の出力特性にあわせて設定をおこないます。
（17ページ　SPEAKER SETUP スピーカーの設定の項参照）

配置のポイント

スピーカーの配置は、実際、部屋の大きさなどによって違いますが、ここでは各スピーカーの基本的配置例と配置のポイントを説明します。



フロントL/Rスピーカー
リスニングポジションから見てLとRのスピーカーが 45度～60度の角度を持つように設置することを推奨します。

センタースピーカー
フロントL/R スピーカーと前面を揃えるか、またはわずかに後方にずらして設置します。

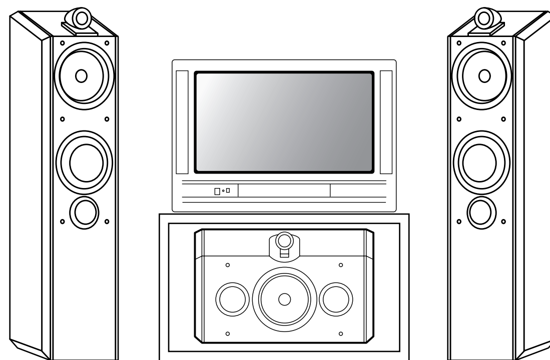
サラウンドL/Rスピーカー
座席の真横から手前に設置します。座席位置よりも後方には置きません。

サラウンドバックスピーカー
座席の後ろに設置します。サラウンドバックL/R 2本のスピーカーを使用する場合は図のような配置角度に設置してください。

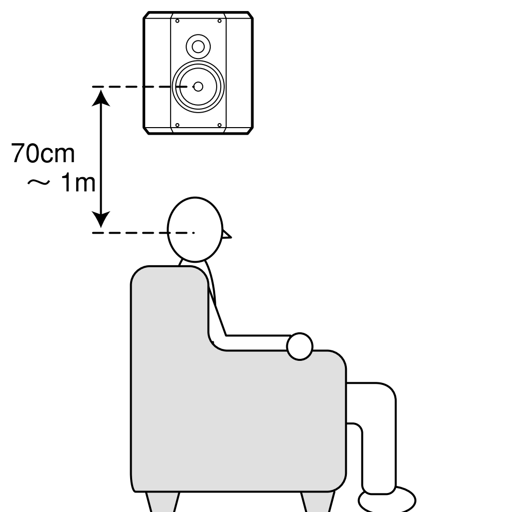
サブウーファー
低音の効果を最大限に得るために利用することをお勧めします。サブウーファーは低音域のみを扱う為、部屋の中であればどこに配置しても大丈夫です。

スピーカー配置の高さ

フロントスピーカー（L、R、センター）
3つのフロントスピーカーの中・高域用ユニットはできる限り同じ高さに揃えます。これは、センタースピーカーをテレビセットの真上、または真下に設置することを意味します。
このような場合、防磁型のセンタースピーカーを使う必要があります。



サラウンドL/R、サラウンドバックスピーカー
場所が許す限り、リスナーより70 センチから1メートル程上方に設置します。この位置で設置することにより、音源定位を際立たせず、より包み込むようなサラウンド感を実現します。

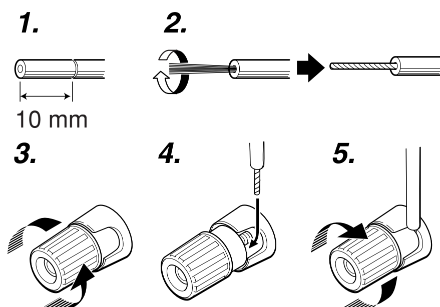


スピーカーの接続

パッシブ
サブウーファ
パワーアンプ
または
アンプ内蔵
サブウーファ
フロント
R L
サラウンド
R L
サラウンドバックスピーカー
を2本使用時
サラウンド
バック
R L
センター
サラウンド
バック
ステレオ
パワーアンプ

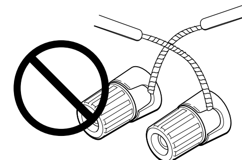
スピーカーコードの接続

1. スピーカーコードの皮膜を約10mm取り除く
2. ショートを防止するため裸のコード先端をきつくよじる
3. スピーカー端子を左回しに回して、端子をゆるめる
4. スピーカー端子脇にある穴にスピーカーコードの裸の部分を挿入する
5. スピーカー端子を右回しに回して、端子を締める



ご注意

- 本機後面に表記されているインピーダンス仕様のスピーカーを必ずご使用ください。
- 回路への損害を防止するため、裸のスピーカーコード同士を接触したり、本機の金属部分に接触させたりしないでください。

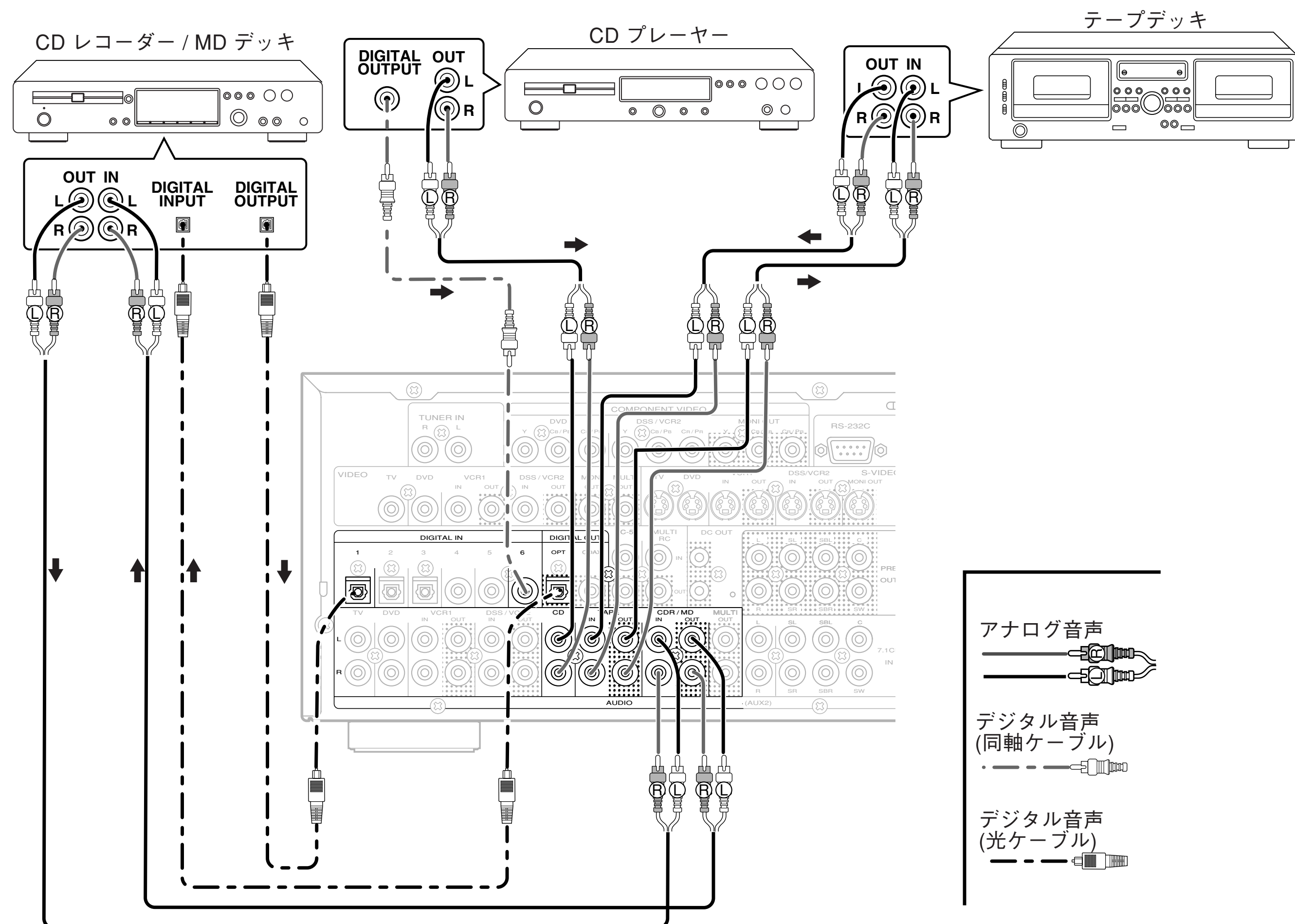


- 感電の恐れがあるので、電源がONのときはスピーカー端子に触れないでください。
- １つのスピーカー端子に複数のスピーカーコードを接続しないでください。本機に損害を与える恐れがあります。
- スピーカー端子への接続は極性を間違えずに行ってください。間違えた場合、信号の位相は反転し、再生される音楽は不自然になります。

サブウーファーの接続

パワード(パワーアンプ内蔵)サブウーファーとの接続は、本機のサブウーファー用音声出力端子を使用してください。
パッシブタイプのサブウーファーをご使用の場合は、本機のサブウーファー用音声出力端子とモノラルパワーアンプを接続し、そのモノラルパワーアンプとパッシブタイプのサブウーファーを接続してください。
詳細な接続は、ご使用のサブウーファーの取扱説明書をお読みください。

音声機器との接続



TAPE出力端子とCD-R/MD出力端子からの音声出力信号は、現在選択されている音声ソースです。

ご注意

- 全ての接続が完全に終わるまで、本機や他の機器の電源コードを電源コンセントに差し込まないでください。
- 接続コードのプラグは確実に接続端子に挿入してください。不完全な接続は、雑音の原因となります。
- レフト(左)チャンネルとライト(右)チャンネルを正しく接続してください。赤い端子はライト(右)チャンネル、白い端子はレフト(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- 本機と接続するそれぞれの機器については、それぞれの取扱説明書を参考にしてください。
- 音声／映像接続ケーブルと電源コードやスピーカーコードは束ねないでください。束ねると、結果としてハムやその他の雑音を発生します。

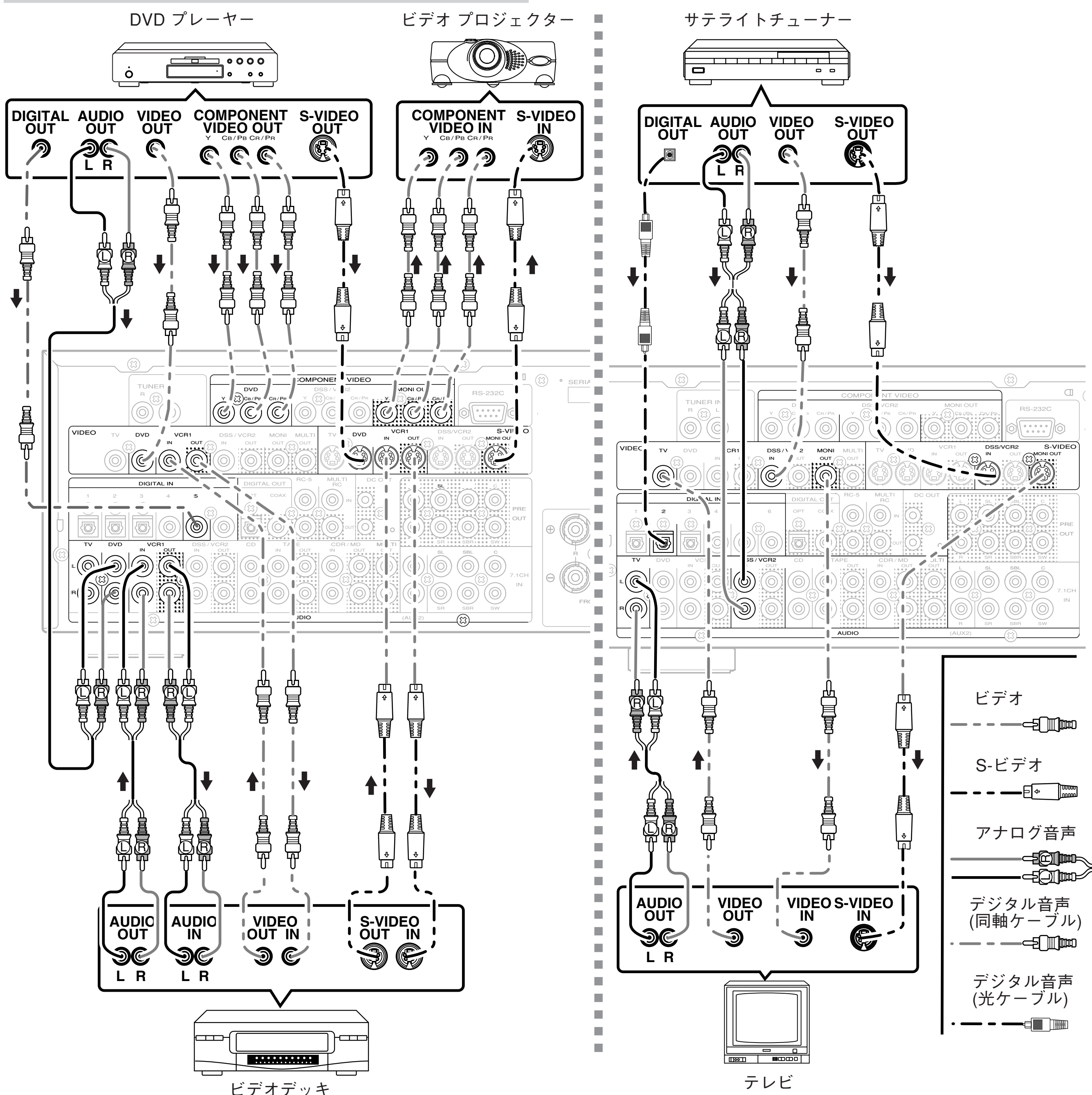
デジタル音声機器との接続

- 本機の後面には、同軸端子3系統と光端子3系統、計6系統のデジタル入力があります。
- これらの端子を使用して、CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどのデジタル音声機器からPCM信号、Dolby Digital信号、DTSビットストリーム信号、AACビットストリーム信号を入力できます。
- 本機の後面には、同軸端子1系統と光端子1系統、計2系統のデジタル出力があります。これらの端子は、CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器との接続ができます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。
- DIG-1、2および3の入力端子には光ケーブルをご使用ください。DIG-4および6の入力端子にはデジタル音声用または映像用の75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
- あなたの機器に応じて、それぞれのデジタル入出力端子に対して入力を指定することができます。→ 17ページ参照

ご注意

- 本機はDolby Digital 用RF入力端子を装備していません。ビデオディスクプレーヤーのDolby Digital RF出力を使用する場合は、外付けのRFデモジュレーターをご使用ください。
- デジタルおよびアナログそれぞれの音声端子は独立しています。デジタル端子とアナログ端子に入力された信号は、対応するデジタル端子とアナログ端子にそれぞれ出力されます。

映像機器との接続



ビデオ、S-ビデオ端子

本機の後面には 3 つのタイプのビデオ(映像)端子があります。

ビデオ端子

ビデオ端子の映像信号は従来の複合映像信号です。

S-ビデオ端子

S-ビデオ端子用の映像信号は、輝度信号(Y)と色信号(C)に分離しています。S-ビデオ信号は高品質の色再現を可能にします。ご使用の映像機器がS-ビデオ出力を装備しているのであれば、S-ビデオ出力の使用をお勧めします。本機のS-ビデオ入力端子とご使用の映像機器のS-ビデオ出力端子を接続してください。

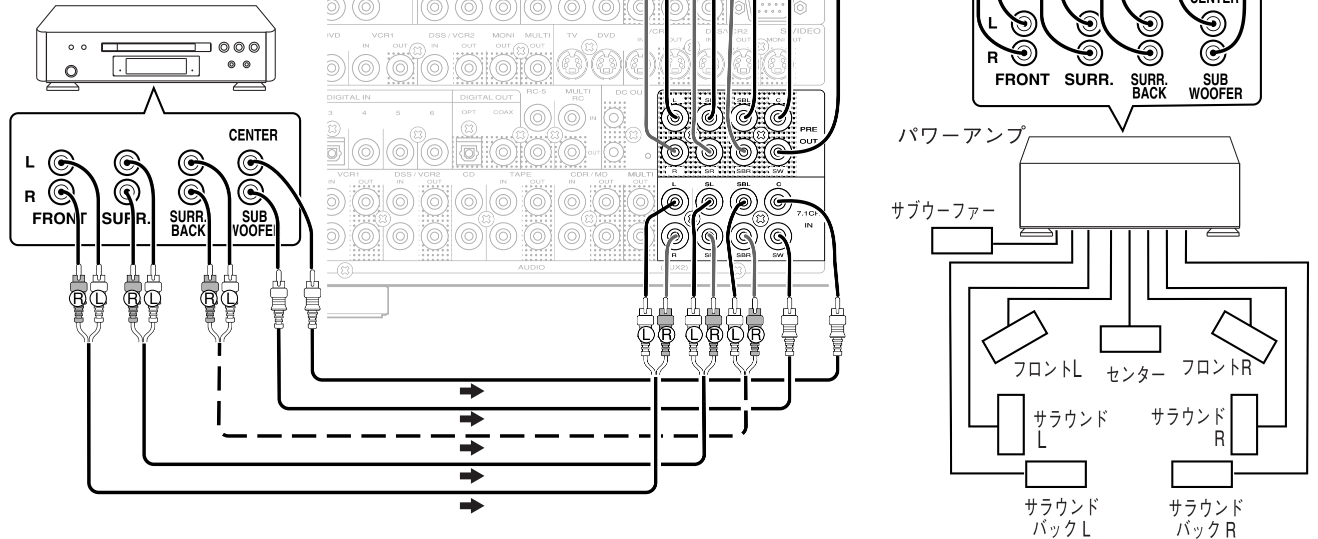
コンポーネントビデオ(色差ビデオ)端子

コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y)、色差信号(Pb)、色差信号(Pr)の 3本から構成されており、より高品質な映像再生を可能にしております。
PS7300では DVDおよびDSSの二つの入力に対応しております。

ご注意

- レフト(左)チャンネルとライト(右)チャンネル正しく接続してください。赤い端子はライト(右)チャンネル、白い端子はレフト(左)チャンネルです。
- 入力と出力は正しく接続してください。
- ビデオおよびS-ビデオそれぞれの映像端子は独立しています。ビデオ(同軸)端子とS-ビデオ端子に入力された信号は、対応するビデオ(同軸)端子とS-ビデオ端子にそれぞれ出力されます。
- DVDプレーヤーや、その他デジタルソース機器のデジタル音声フォーマットの設定を行ってください。デジタル入力端子に接続されるそれぞれの機器については、取扱説明書を参照してください。

発展させた接続



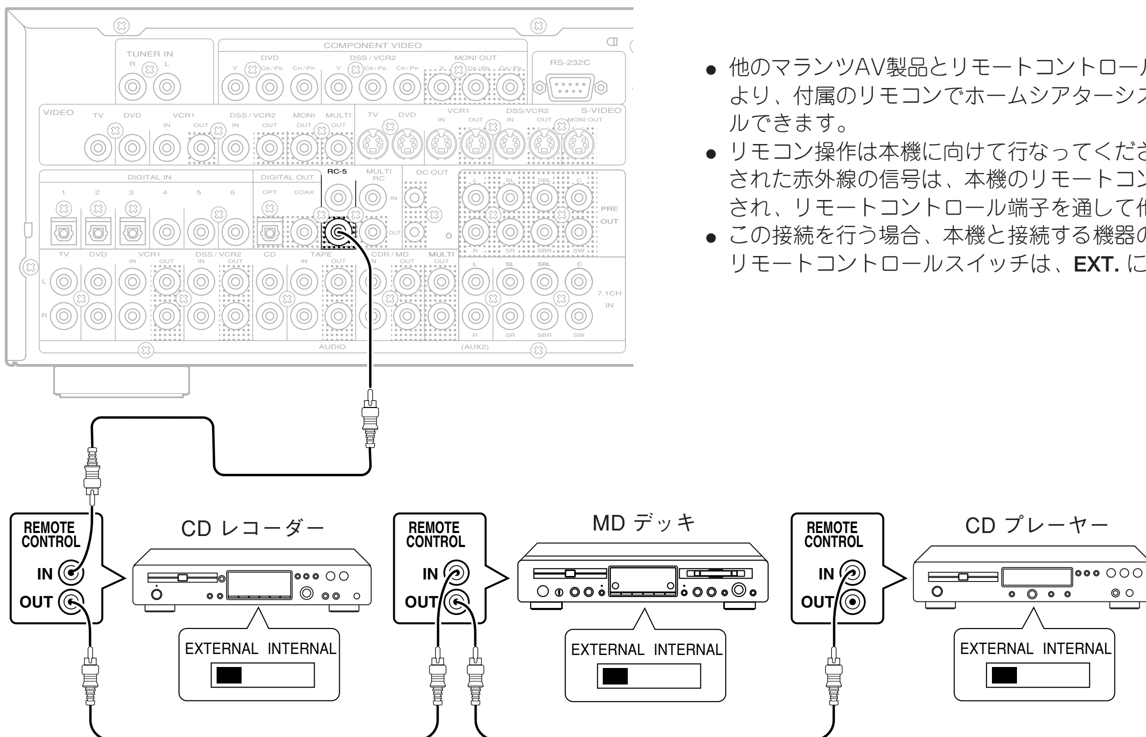
マルチチャンネルオーディオ機器との接続

7.1CH 音声入力端子は、SACDマルチチャンネルプレーヤー、DVDオーディオプレーヤーまたは外付けのデコーダーのようなマルチチャンネルオーディオソース用の端子です。
これらの端子を使用する場合には、7.1 CH INPUTに切替え、セットアップメインメニューを使用して、7.1 CH入力レベルを設定してください。

単体パワーアンプとの接続

単体パワーアンプをシステムに追加することで、更にホームシアターの臨場感を高めることができます。
プリアンプ音声出力端子をパワーアンプと接続し、それぞれのスピーカーと、それに対応するパワーアンプを接続してください。

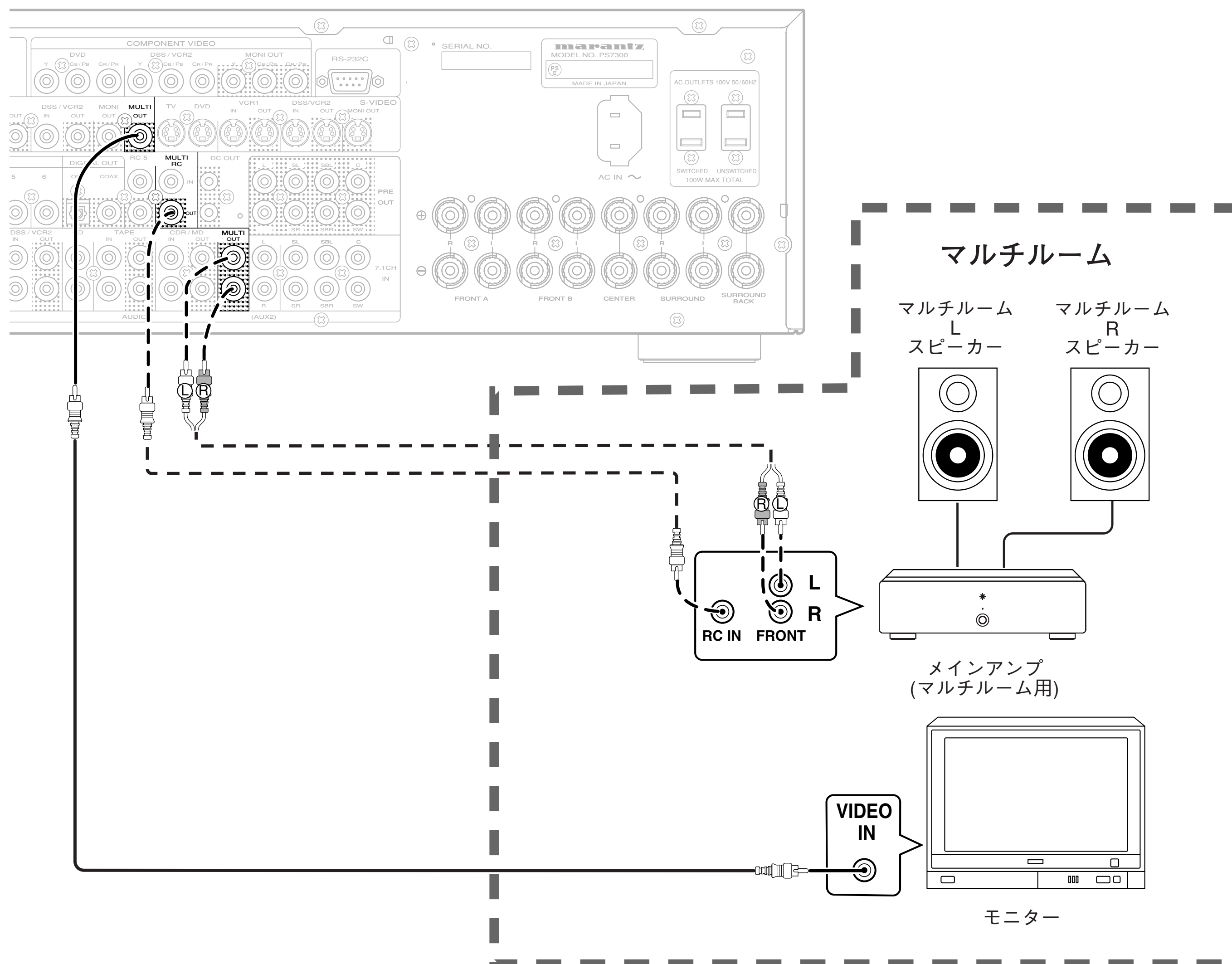
リモートコントロール接続



- 他のマランツAV製品とリモートコントロール端子を接続することにより、付属のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。
- リモコン操作は本機に向けて行なってください。リモコンから送信された赤外線の信号は、本機のリモートコントロール受光部で受光され、リモートコントロール端子を通して他の機器に送られます。
- この接続を行う場合、本機と接続する機器の後面に装備されているリモートコントロールスイッチは、**EXT.** に設定して下さい。

マルチルーム接続

図のようにマランツSM6100などのアンプと組み合せることによって別室にて本機に接続された再生機器を使って音楽や映画鑑賞をすることができます。



システムセットアップ

全ての機器の接続が終了した後、OSD セットアップメニューを用いて各種設定をして下さい。

OSD セットアップメニュー

OSDセットアップメニューはリモコンの***SETUP*** ボタン、***カーソル*** ボタン(▲, ▼, ◄ , ►)、***OK*** ボタン及び***EXIT*** ボタンの操作によって様々な設定が可能です。
また本体の***SELECT*** ボタン、***ENTER*** ボタン、***SELECTOR*** ダイヤル、***UP/DOWN*** ボタンによっても操作可能です。このとき本体前面表示部にはOSDメニュー内の設定中の項目が表示されます。

ご注意
OSDメニューシステムをTVやプロジェクター等の画面に表示させる場合は、必ず本機のMONITOR-OUT端子の出力(ビデオあるいはSビデオ)をTVやプロジェクター等に接続して下さい。

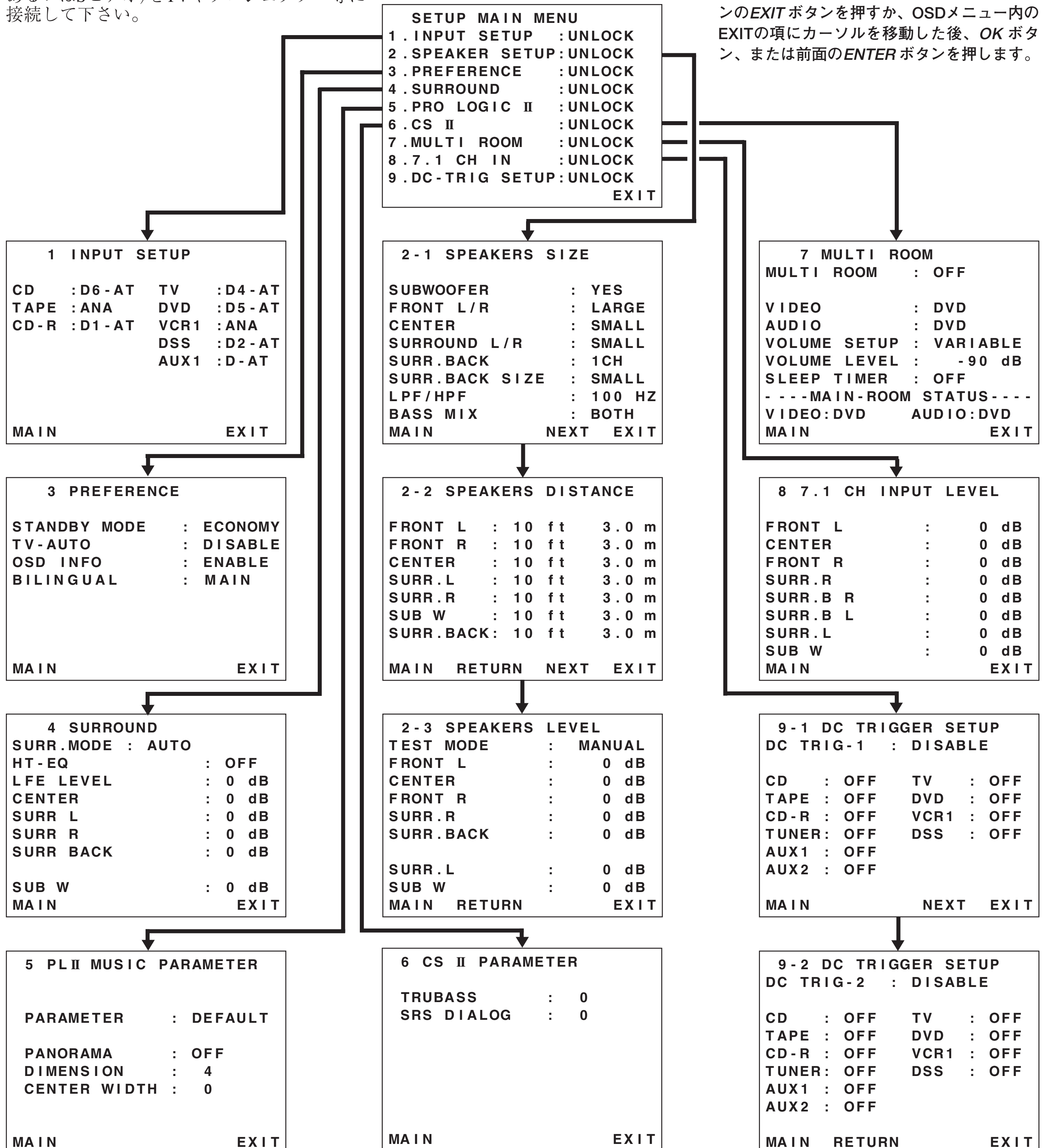
1. **リモコンの*SETUP* ボタンもしくは*OK* ボタンを押します。または本体の*SELECT* ボタンを押し、表示部に「SETUP」と表示させた後、*ENTER* ボタンを押します。**
SETUP MAIN MENU画面が表示されます。本システムは下記のように9の項目に分かれていて、全部で12画面で構成されています。

2. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを選択項目の上下移動に用います。**

3. **リモコンのカーソルボタン(◄ , ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを設定変更に用います。リモコンの*OK* ボタン、本体の*ENTER* ボタンを確定用に用います。**

4. **リモコンのカーソルボタン(◄ , ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを用いて各項目毎にLOCKEDまたはUNLOCKを設定します。LOCKEDを設定した場合は、その項目の選択ができなくなります。設定を行ないたい項目は、UNLOCKを選択してください。**

5. **OSDメニュー動作を解除する場合は、リモコンの*EXIT* ボタンを押すか、OSDメニュー内のEXITの項にカーソルを移動した後、*OK* ボタン、または前面の*ENTER* ボタンを押します。**



また、本文章内の表記において「カーソルボタン(▲, ▼)」は、「カーソルボタンの上または下」、同様に「カーソルボタン(◀, ▶)」は、「カーソルボタンの左または右」という意味としてご理解ください。

1 INPUT SETUP (デジタル入力設定)

```
    1  INPUT  SETUP

CD     : D6-AT   TV     : D4-AT
TAPE   : ANA     DVD    : D5-AT
CD-R   : D1-AT   VCR1   : ANA
                 DSS    : D2-AT
                 AUX1   : D-AT



MAIN                       EXIT
```

本機のデジタル入力端子を接続状態に応じて入力ファンクション毎に設定することができます。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面の「1 INPUT SETUP」の項を選びます。**

2. **リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押して確定します。**

INPUT SETUPの画面が表示されます。

3. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、設定したい入力ファンクションを選びます。**

4. **リモコンのカーソルボタン(◀ , ▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを使って、接続状態に応じた設定に変更します。**

デジタル入力はAUX1を除いて1から6の選択が可能です。

- **Dx−AT** を選択した場合、1.5秒間デジタル信号の入力が無い時には、自動的にアナログ入力に切り替わります。
- **DIG−x** を選択した場合、デジタル入力に固定されます。
- **ANA** を選択した場合、アナログ入力に固定されます。

5. **カーソルを他の行に移動すると設定が確定されます。**

6. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動し、リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押します。**

SETUP MAIN MENU画面に戻ります。

ご注意

- DTS-CDやDTS-LDを本機で再生している場合、アナログ入力信号からのノイズの再生を防ぐ為、この画面で設定の切り替えを禁止しております。

2 SPEAKER SETUP (スピーカーの設定)

この項では、接続したスピーカーの大きさ、接続の有り無し、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離、各チャンネルの音量バランスなどを設定します。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面の「2 SPEAKER SETUP」の項を選びます。**

2. **リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押して確定します。**

SPEAKER SETUPの始めの画面「**2-1 SPEAKER SIZE**」が表示されます。

2-1 SPEAKERS SIZE (スピーカーの有無およびサイズの設定)

2-1 SPEAKER SIZEの画面にて設定を行います。

```
  2-1  SPEAKERS  SIZE

SUBWOOFER          :  YES
FRONT  L/R         :  LARGE
CENTER             :  SMALL
SURROUND  L/R      :  SMALL
SURR.BACK          :  1CH
SURR.BACK  SIZE    :  SMALL
LPF/HPF            :  100  HZ
BASS  MIX          :  BOTH
MAIN            NEXT   EXIT
```

本設定画面では、使用する各チャンネルのスピーカーの低音域の再生能力や接続の有無などに合わせて設定を行います。以下の**スピーカーサイズ設定のガイドライン**に基づき選択して下さい。

スピーカーサイズ設定のガイドライン

LARGE： 充分な低音再生能力をもった全帯域対応の大型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の全帯域をそのままスピーカーへ出力します。

SMALL： 低音再生に非対応の小型のスピーカーを使用する場合に選んでください。再生信号の低音域は、サブウーファー出力端子へ振り分けて出力されます。
(SUBWOOFER：NONEに設定した場合はフロントL/Rチャンネルへ振り分けて出力されます)

NONE： 対象となるチャンネルのスピーカーを接続していない場合に選択します。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、設定したい項目を選びます。**

2. **リモコンのカーソルボタン(◀ , ▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを使って、接続状態に応じて設定を変更します。**

SUBWOOFER : YES ⇔ NONE

サブウーファーを使用するか、使用しないかを選んでください。

YES： サブウーファーを使用する場合、選んでください。

NONE： サブウーファーを使用しない場合、選んでください。

ご注意

- NONEを選択した場合、自動的にFRONT L/Rの設定はLARGEに固定されます。この場合、5.1ch信号に含まれているLFE信号はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

FRONT L/R : SMALL ⇔ LARGE

上記スピーカーサイズ設定のガイドラインに沿ってフロントL/Rチャンネル用の選択をします。

ご注意

- SUBWOOFER:NONEに設定されている場合は、自動的にLARGEに固定されます。

CENTER : SMALL ⇔ LARGE ⇔ NONE

上記スピーカーサイズ設定のガイドラインに沿ってセンターチャンネル用の選択をします。

ご注意

- NONEに設定されている場合、センターチャンネル信号成分は、フロントL/Rスピーカーへ振り分けて出力されます。

SURROUND L/R：SMALL ⇔ LARGE ⇔ NONE

上記スピーカーサイズ設定のガイドラインに沿ってサラウンドL/Rチャンネル用の選択をします。

ご注意

- NONEに設定されている場合、サラウンドL/Rチャンネル信号成分は、フロントL/Rスピーカーへ振り分けて出力されます。

SURR.BACK： 2 CH ⇔ 1CH ⇔ NONE

2CH： サラウンドバックスピーカーを2本使用する場合、選んでください。

1CH： サラウンドバックスピーカーを1本だけで使用する場合、選んでください。
この場合プリアウト信号は、Suur.Back-L出力端子へのみ出力されます。

NONE： サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、選んでください。NONEに設定されている場合、サラウンドバックチャンネル信号成分は、サラウンドL/Rスピーカーへ振り分けて出力されます。このとき、EX/ESモードを使用することはできません。

SURR.BACK SIZE：SMALL ⇔ LARGE

前のページ、スピーカーサイズ設定のガイドラインに沿ってサラウンドバックチャンネル用の選択をします。

LPF/HPF ：80Hz ⇔ 100Hz ⇔ 120Hz

使用するスピーカーの低音再生特性に合わせて、内部クロスオーバー周波数を80Hz, 100Hz, 120Hzと選択できます。
Smallに設定したチャンネルは この設定周波数のハイパスフィルターを通過します。サブウーファーへの出力はこの設定周波数のローパスフィルターを通過します。お使いのスピーカーの特性によって調整して下さい。

BASS MIX ：BOTH ⇔ MIX

この設定はSUBWOOFER：YES、FRONT L/R：LARGE に設定した場合のサブウーファー出力の設定です。

BOTH： この設定は常にフロントL/Rの低音域を、LFE信号と共にサブウーファーへ出力します。

MIX： この設定の場合、サブウーファー出力にフロントL/R成分が回りこむのは、フロントL/RがSmallに設定された場合だけです。FRONT L/R：Largeの場合はサブウーファー出力にフロントL/R成分は出力されません。

1. **この画面の全ての設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、NEXTの項へ移動します。**

2. **リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押して、次画面の2-2 SPEAKERS DISTANCE画面に進みます。**

ご注意

- 本画面による設定は7.1CH－INPUTやS-DIRECTを選択した場合は、無効になります。

2-2 SPEAKERS DISTANCE（スピーカーまでの距離の設定）

2-2 SPEAKERS DISTANCEの画面にて設定を行います。

```
  2-2 SPEAKERS DISTANCE

FRONT L    : 10 ft   3.0 m
FRONT R    : 10 ft   3.0 m
CENTER     : 10 ft   3.0 m
SURR.L     : 10 ft   3.0 m
SURR.R     : 10 ft   3.0 m
SUB W      : 10 ft   3.0 m
SURR.BACK: 10 ft   3.0 m

MAIN  RETURN  NEXT  EXIT
```

本設定画面では、リスニングポジションから各スピーカーへの距離を入力します。
ここで入力した距離に従い、各スピーカーからの音声の到達時間が同一になるように各チャンネルのディレイ時間が設定されます。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、対象のチャンネルを選びます。**

2. **リモコンのカーソルボタン(◄ , ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して、対象のチャンネル距離の設定を変更します。**

入力する距離の各チャンネル間のバランスが異常な程かけ離れている場合、推奨距離となるように入力時に自動的に設定距離のバランスをとって表示します。各チャンネルは0.3mから9mまで0.3m間隔で設定可能です。

ご注意

- SPEAKER SIZEの画面でNONEに設定したチャンネルのスピーカーは表示されません。またSurr.Back： 1 CHに設定した場合はSURR.Bのみの設定になります。

3. **この画面の全ての設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、NEXTの項へ移動します。**

4. **リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押して、次画面の2-3 SPEAKERS LEVEL画面に進みます。**

ご注意

- 本画面によるディレィタイム設定は、7.1CH－INPUT時には無効になります。

2-3 SPEAKERS LEVEL (各スピーカーの出力レベル調整)

2-3 SPEAKERS LEVELの画面にて設定を行います。

```
  2-3 SPEAKERS LEVEL
TEST MODE      :   MANUAL
FRONT L        :     0 dB
CENTER         :     0 dB
FRONT R        :     0 dB
SURR.R         :     0 dB
SURR.BACK      :     0 dB

SURR.L         :     0 dB
SUB W          :     0 dB
MAIN  RETURN          EXIT
```

本設定画面では、、テストノイズ信号を用いて各スピーカーの出力レベルを均等に揃える設定を行います。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、対象のチャンネルを選びます。**

2. **リモコンのカーソルボタン(◀ , ▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して、出力レベルの調整をします。**

3. **テストノイズの出力方法を選択します。**

TEST MODE：MANUAL ⇔ AUTO

MANUALもしくはAUTOをリモコンのカーソル(◀ , ▶)ボタン、もしくは本体のUP/DOWNボタンを押して選んでください。

AUTO： AUTOを選ぶと自動的にテストノイズの出力をフロントLチャンネルより開始します。テストトーンノイズの出力チャンネルは自動的にL→C→R→SR→SB→SL→SWの順番で約3秒間隔で切り替わります。

MANUAL： リモコンのカーソル(▼)ボタンを押すか、本体のSELECTORダイヤルを右に回すとテストノイズが出力されます。リモコンのカーソル(▼)ボタンを押す毎に、またはダイヤルを右に回すと以下の順番に切り替えます。L→C→R→SR→SB→SL→SW→L

4. **適量な音量にボリュームコントロール ボタンにて調整して下さい。そしてリモコンのカーソルボタン(◀ , ▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して、テストトーンノイズを出力しているチャンネルの出力レベルを調整をします。**

各チャンネルは1dBステップにて調整可能です。各スピーカーからの出力レベルが均等になるように調整します。調整可能範囲はSW(サブウーファー)が+10dB〜−15d B です。その他のチャンネルは、+10dB〜−10dBです。

5. **各チャンネルのレベル調整が完了したら、リモコンのOKボタンまたは本体のENTERボタンを押してください。**

テストノイズの出力が止まり、カーソルが最下段のMAINの項に移動します。

6. **カーソルがMAINの上にある状態にて、リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押して、メインメニューへ戻ります。**

ご注意

- ここの設定で調整したレベルは、全てのドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、プロロジックⅡ、dts、dts−ES、Neo6の再生に共通で使用されます。
- 7.1CH-INPUT用のチャンネルレベル調整は、本設定とは別にメモリーされますので7.1CH LEVEL CONTROLの画面で別に設定して下さい。
- また他のサラウンドモードは個別にSURROUND画面にて設定が可能です。

3 PREFERENCE（便利機能の動作設定）

3 PREFERENCEの画面にて各種設定を行います。

```
    3 PREFERENCE

STANDBY MODE   :  ECONOMY
TV-AUTO        :  DISABLE
OSD INFO       :  ENABLE
BILINGUAL      :  MAIN




MAIN                 EXIT
```

本設定画面では、本機の各種便利機能の動作設定行います。

1. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面の 3 PREFERENCE の項を選びます。**

2. **リモコンのOKボタンまたは本体のENTERボタンを押して確定します。PREFERENCEの画面が表示されます。**

3. **リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って設定したい項目を選びます。**

4. **リモコンのカーソルボタン(◀ , ▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して各項の設定を変更します。**

5. **本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。**

6. **リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。**

STANDBY MODE ：ECONOMY ⇔ NORMAL

ECONOMYを設定すると電源をスタンバイ状態にした場合の消費電力を低減させることが可能です。ただし この設定にした場合、TVオート ON/OFFの機能は使用できなくなります。また将来に向けてのMULTI RC入力や RS232C入力による 外部コントロールも使用できません。

上記機能を使用する場合は NORMALの設定をして下さい。

参考 ：スタンバイ消費電力 ECONOMY時：約0.6W
NORMAL時：約1.1W。

TV-AUTO ： DISABLE ⇔ ENABLE

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにする機能です。

テレビの電源を入れると本機の電源が入り、テレビの電源を切ると本機は5分後にスタンバイになります。

ENABLE： 本機能を使う場合、選んでください。
DISABLE： 本機能を使用しない場合、選んでください。

詳細は28 ページのTV-AUTOの項を参照して下さい。

ご注意

- 本機能を使用する場合必ずテレビ側のVIDEO出力端子と本体のテレビ用VIDEO入力端子を接続して下さい。また本体の主電源を入れた状態でお使い下さい。テレビやテレビチューナーからのビデオ信号を本機に接続しない場合は、DISABLEを選択して下さい。

OSD-INFO：ENABLE ⇔ DISABLE

本機の入力切り替え、音量調節、サラウンドモード切り替え等をおこなった場合に、テレビ画面にその動作状況を5秒間を表示します。この表示機能の選択が可能です。

ENABLE： 表示機能を働かせる場合、選んでください。
DISABLE： 表示機能が不要の場合、選んでください。

ご注意

- 本機能は背面パネル内のMONITOR出力にのみ働きます。
- 本機能はVIDEO入力およびS-VIDEO入力に有効です。コンポーネントビデオ入力には働きません。
- VIDEO入力かS-VIDEO入力かを検出して働きます。S-VIDEOが優先となりますので、両方の端子に入力が接続されている場合、S-VIDEO用のMONITOR出力のみに表示が現れます。

BILINGUAL（AAC）： MAIN⇒SUB⇒MAIN+SUB⇒
BSデジタル放送などのAAC信号入力において、2カ国語放送などの場合に再生する信号を選択します。
MAIN： 主音声のみをフロントL/Rチャンネルから再生します。
SUB： 副音声のみをフロントL/Rチャンネルから再生します。
MAIN+SUB： 主音声をフロントL、副音声をフロントRから再生します。

4 SURROUND（サラウンドモードの設定）

4 SURROUNDの画面にて各種設定を行います。

```
    4 SURROUND
SURR.MODE  :  AUTO
HT-EQ              :  OFF
LFE LEVEL          :  0 dB
CENTER             :  0 dB
SURR L             :  0 dB
SURR R             :  0 dB
SURR BACK          :  0 dB

SUB W              :  0 dB
MAIN                  EXIT
```

本設定画面では、サラウンドモードの選択や各種エフェクトのレベル調整をすることが可能です。
サラウンドモードに関しては25ページの「サラウンドモードについて」の項を参照して下さい。

1. リモコンのカーソルボタン（▲, ▼）、または本体の*SELECTOR*ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面のSURROUNDの項を選びます。
2. リモコンのOKボタンまたは本体のENTERボタンを押して確定します。SURROUNDの画面が表示されます。
3. リモコンのカーソルボタン（▲, ▼）、または本体の*SELECTOR*ダイヤルを使って設定したい項目を選びます。
4. リモコンのカーソルボタン（◄, ►）、または本体の*UP/DOWN*ボタンを押して各項の設定を変更します。
5. 本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン（▲, ▼）、または本体の*SELECTOR*ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。
6. リモコンの*OK*ボタンもしくは本体の*ENTER*ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

SURR.MODE：AUTO ⇒．．．⇒ STEREO ⇒
サラウンドモードを順番に選択します。

HT-EQ： OFF ⇔ ON
HT-EQ（ホームシネマ イコライザー）のON/OFFを切り替えます。
HT-EQは、本来劇場用に録音された映画のサウンドトラックを家庭で再生する際に、劇場の特性を忠実に再生するように補正を行うイコライザー機能です。

ご注意
- 本機能はサウンドモードは S-DIRECT, MULTI-CH.STEREO, VIRTUAL時は無効となります。

LFE-LEVEL： 0 dB⇒ -10dB⇒ OFF⇒
お使いのスピーカーシステムと選んだサラウンドモードの組合わせにり、低音域の出力にて歪みを発生する場合があります。これは、Dolby Digital信号やDTS信号内のLFE レベルが大き過ぎるためです。
この様な場合にLFE信号の再生レベルを以下のように設定することができます。
0dB： LFE信号は通常レベルで再生されます。（通常設定）
-10dB： LFE信号の再生レベルを-10dB減衰します。
Off： LFE信号の再生を行いません。

CENTER
センターチャンネルのレベルをお好みによって調整します。－10から＋10まで調整可能です。

SURR L
サラウンドLチャンネルのレベルをお好みによって調整します。－10から＋10まで調整可能です。

SURR R
サラウンドRチャンネルのレベルをお好みによって調整します。－10から＋10まで調整可能です。

SURR BACK
サラウンドバックチャンネルのレベルをお好みによって調整します。－10から＋10まで調整可能です。

SUB W LEVEL
サブウーファーチャンネルのレベルをお好みによって調整します。－15から＋10まで調整可能です。

5 PLⅡ (Pro Logic Ⅱ) MUSIC PARAMETER （プロ ロジックⅡ-ミュージック モード用設定）

5 PL2-MUSIC PARAMETERの画面にて設定を行います。

```
 5 PLⅡ MUSIC PARAMETER


 PARAMETER      :  DEFAULT

 PANORAMA       :  OFF
 DIMENSION      :    4
 CENTER WIDTH   :    0


MAIN                    EXIT
```

本設定画面では、ドルビープロロジックⅡ －ミュージックモードの各種処理の詳細をお好みに合わせて設定することが可能です。
ドルビープロロジックⅡ －ミュージックモードはCDなどのステレオソースからでも、臨場感あふれるサラウンド効果を得ることができます。

ご注意
- 本画面で設定を行う場合、サラウンドモードをPRO LOGIC II MUSICモードに選択してからおこなって下さい。

1. リモコンのカーソルボタン（▲, ▼）、または本体の*SELECTOR*ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面のPLⅡ-PARAMETERの項を選びます。
2. リモコンの*OK*ボタンもしくは本体の*ENTER*ボタンを押して確定します。
3. リモコンのカーソルボタン（▲, ▼）、または本体の*SELECTOR*ダイヤルを使って設定したい項目を選びます。
4. リモコンのカーソルボタン（◄, ►）、または本体の*UP/DOWN*ボタンを押して各項の設定を変更します。

PARAMETER： DEFAULT ⇔ CUSTOM
DEFAULT： 標準設定を使用する場合に選択します。各設定が基本の固定値となります。
CUSTOM： 各種処理の詳細をお好みに合わせて設定する場合に選択します。下記の調整をする場合は、こちらを選んでください。

PANORAMA：OFF ⇔ ON
本機能をONするとフロントの音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドchに繋げるような印象になります。

DIMENSION：0⇒．．．⇒6
フロントとリアのレベル差を調整する機能です。入力ソースによってはフロントが強くでるもの、リアが強くでるもの、と多様になりますので、この機能で好みのバランスを得ることができます。0から6までの7段階の調整が可能です。

CENTER WIDTH：0⇒．．．⇒7
センターチャンネル成分を、徐々にフロントL/Rのスピーカーに振り分ける機能です。
センター成分を振り分けることで、スピーカー間の音色の不一致を緩和させることが可能になります。0から7までの8段階の調整が可能です。

5. 本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。

6. リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

6 CSⅡ（サークルサラウンドⅡ）パラメーター

6 CSⅡ PARAMETERの画面にて設定を行います。

```
 6 CSⅡ PARAMETER

 TRUBASS        :  0
 SRS DIALOG     :  0






MAIN                     EXIT
```

本設定画面では、CSⅡ再生時の各種処理の詳細をお好みに合わせて設定することが可能です。

ご注意

- 本画面で設定を行う場合、サラウンドモードをCSⅡモードに選択してからおこなって下さい。

1. リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面のCSⅡ-PARAMETERの項を選びます。

2. リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押して確定します。

3. リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って設定したい項目を選びます。

4. リモコンのカーソルボタン(◀,▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して各項の設定を変更します。

TRUBASS　：　0⇒．．．⇒7

- Trubassは、パイプオルガンの低音再生技法を電気的に応用したもので、使用するスピーカーの f_0(最低再生可能周波数)以下の低音を再生できます。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程効果が大きくなります。
- サブウーファーを使用している場合、本機能はサブウーファー出力に働きます。
- サブウーファーを使用していない場合、本機能はフロントL/R出力に働きます。

SRS DIALOG　：　0⇒．．．⇒7

- SRS Dialogはダイアログ(台詞)を明瞭にすると共に、床置きのセンタースピーカーから出る音の音像定位を画面の高さから聴こえるように、上方向に移動(仮想配置)します。
- 0から6まで7段階で設定できます。数値が上がる程、効果が大きくなります。
- SPEAKER SIZE(スピーカーのサイズ)セットアップでセンタースピーカーを「NONE」と選択している場合、この設定を行うことはできません。

5. 本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。

6. リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

7 MULTI ROOM（マルチルーム機能の設定）

7 MULTI ROOMの画面にて各種設定を行います。

```
    7 MULTI ROOM
MULTI ROOM    : OFF

VIDEO         : DVD
AUDIO         : DVD
VOLUME SETUP  : VARIABLE
VOLUME LEVEL  :   -90 dB
SLEEP TIMER   : OFF
----MAIN-ROOM STATUS----
VIDEO:DVD      AUDIO:DVD
MAIN                 EXIT
```

本機はマルチルームシステムの機能を搭載しております。(31ページ参照)
この画面では、この機能を使用するときの各種設定を変更することが可能です。

1. リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面のMULTI ROOMの項を選びます。

2. リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押して確定します。MULTI ROOMの画面が表示されます。

3. リモコンのカーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って設定したい項目を選びます。

4. リモコンのカーソルボタン(◀,▶)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して各項の設定を変更します。

5. 本画面の設定が完了したら、カーソルボタン(▲,▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。

6. リモコンの*OK* ボタンもしくは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

MULTIROOM　：　OFF ⇔ ON
マルチルームシステムのON/OFFを設定します。

VIDEO
マルチルームシステムへ出力するビデオソースを設定します。

AUDIO
マルチルームシステムへ出力するオーディオソースを設定します。

VOLUME SETUP：VARIABLE ⇔ FIXED
VARIABLE：マルチルームシステム用のオーディオ信号出力レベルを、将来的に別室からのリモートコマンドによって可変コントロール可能(VARIABLE)にする場合選択します。
FIXED：マルチルームシステム用のオーディオ信号出力レベルを固定(FIXED)にする場合に選択します。本機からの出力レベルは下記のレベル設定値に固定されます。

VOLUME LEVEL：－00⇒．．．⇒0 dB
上記VOLUME SETUPの設定において固定(FIXED)にした場合、その固定値を設定します。VOLUME SETUP設定において可変(VARIABLE)にした場合、現状値を表示します。

SLEEP TIMER：OFF ⇒ 10 ⇒．．．⇒ 90 ⇒
マルチルーム機能用のスリープタイマー設定です。
OFF→10→20→．．．→90と10分間隔で90分まで設定可能です。設定した時間でマルチルーム機能がOFF状態になります。

MAIN ROOM STATUS：VIDEO / AUDIO
メインルーム側の現在の入力設定状態を表示します。(表示のみで設定はできません)

8 7.1CH-INPUT LEVEL （7.1CH-INPUT用チャンネルレベル調整）

8 7.1CH-INPUT LEVELの画面にて設定を行います。

```
 8 7.1 CH INPUT LEVEL

FRONT L      :    0 dB
CENTER       :    0 dB
FRONT R      :    0 dB
SURR.R       :    0 dB
SURR.B R     :    0 dB
SURR.B L     :    0 dB
SURR.L       :    0 dB
SUB W        :    0 dB
MAIN                EXIT
```

この画面では、7.1CH-INPUT入力動作時の各スピーカーの出力レベルを均等に揃えることが可能です。

1. リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面の7.1CH-INPUT LEVELの項を選びます。

2. リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押して確定します。

7.1CH-INPUT LEVELの画面が表示されます。

3. リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、対象のチャンネルを選びます。

4. リモコンのカーソルボタン(◄, ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して出力レベルの調整をします。

調整可能範囲はSW(サブウーファー)が+10dB〜−15dBです。その他のチャンネルは、+10dB〜−10dBです。

ご注意

- この画面での設定値は7.1CH-INPUT入力動作時にのみ適用されます。

5. 本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体のSELECTORダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。

6. リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

9 DC TRIGGER SETUP （DCトリガー信号出力設定）

9 DCTRIGGER SETUPの画面にて設定を行います。

```
 9-1 DC TRIGGER SETUP
DC TRIG-1   : DISABLE

CD    : OFF   TV   : OFF
TAPE  : OFF   DVD  : OFF
CD-R  : OFF   VCR1 : OFF
TUNER: OFF    DSS  : OFF
AUX1  : OFF
AUX2  : OFF

MAIN           NEXT  EXIT
```

本画面では、将来に向けての、ホームシネマシステム用外部コントロール機器との接続設定用に用います。
本機のファンクション入力切替に連動させて、スクリーンを自動昇降させたり、部屋のライトを点灯、消灯などの用途に向けての設定です。
設定した入力ファンクションが選ばれた場合に本機背面のDC OUT1及び2からトリガー信号(DC12V)を出力します。

1. リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、SETUP MAIN MENU画面の8)DCTRIGGER SETUPの項を選びます。

2. リモコンのOKボタンまたは本体のENTERボタンを押して確定します。

DC TRIGGER SETUPの画面(DC TRIG-1用)が表示されます。

3. リモコンのカーソルボタン(◄, ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押して、DISABLE、MAINROOMまたはMULTIROOMを選択します。

DISABLE： DC-TRG-1の出力を使用しない場合に選択します。
MAIN ROOM： DC-TRG-1の出力をメインルーム用の入力切替に連動させる場合に選択します。
MULTI ROOM： DC-TRG-1の出力をマルチルーム用の入力切替に連動させる場合に選択します。

4. リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、各ファンクションを選択します。

5. リモコンのカーソルボタン(◄, ►)、または本体の*UP/DOWN* ボタンを押します。

ON： 連動出力をさせる場合に選択します。
OFF： 連動出力をさせない場合に選択します。

6. 本画面の設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、NEXTの項へ移動します。

7. リモコンの*OK*ボタンまたは本体の*ENTER*ボタンを押して、DC TRIGGER SETUP(DC TRG-2用)画面に進んでください。

```
 9-2 DC TRIGGER SETUP
DC TRIG-2   : DISABLE

CD    : OFF   TV   : OFF
TAPE  : OFF   DVD  : OFF
CD-R  : OFF   VCR1 : OFF
TUNER: OFF    DSS  : OFF
AUX1  : OFF
AUX2  : OFF

MAIN  RETURN         EXIT
```

8. 上記の手順3.〜 5.と同様にDC-TRG-2出力の設定をおこなって下さい。

9. 全ての設定が完了したら、リモコンのカーソルボタン(▲, ▼)、または本体の*SELECTOR* ダイヤルを使って、MAINの項へ移動します。

10. リモコンの*OK* ボタンまたは本体の*ENTER* ボタンを押してSETUP MAIN MENU画面に戻ります。

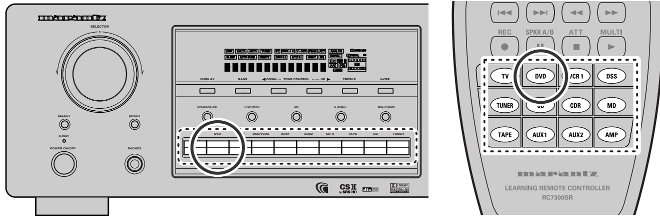
基本操作

ここからの説明におけるリモコンの操作は、リモコンの動作モードをAMP（リモコンの表示部にAMPと表示されている）にした状態です。AMPモードにするにはリモコン上のAMPボタンを一度押して下さい。

入力ファンクションの選択

信号を再生する際は、まず初めに本体の入力ファンクションを選択する必要があります。

例）DVDからの信号を再生する。



1. **本体の*DVD*ボタン、またはリモコンの*DVD*ボタンを押します。**

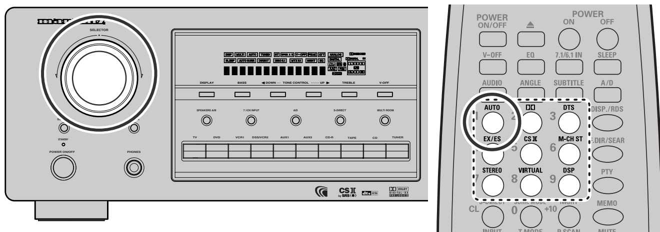
2. **その後DVDプレーヤー側で再生を開始します。**

- 入力ファンクションを切り替えた際、OSDや前面表示部に選択したファンクション名が表示されます。
- 入力ファンクション毎にサラウンドモード、デジタル入力、アナログ入力、など前回の状態がメモリーされています。
- オーディオファンクション（Tuner、CD、Tape、CD-R、AUX2）を選択した場合ビデオ出力は最後に選択したVideo機器の状態を保持しています。
- ビデオ系のファンクションを選択した場合、Monitor OUT（モニターアウト）端子から選択した機器のビデオ信号が出力されます。但しVideo（ビデオ）入力信号はVideo（ビデオ）用Monitor Out端子へ、S-Video（Sビデオ）入力信号はS-Video（Sビデオ）用Monitor Out（モニターアウト）端子へ、コンポーネントビデオ信号はComponent Video用Monitor Outへと出力されます。
- 異なる信号間での入出力は行いません。よって選択したファンクションの入力の種類に合ったモニターアウト信号をTVやプロジェクターに接続して下さい。

サラウンドモードの選択

入力ファンクションを選んだ後は、ご希望のサラウンドモードを選択します。
各サラウンドモードについては　25ページのサラウンドモードの項を参照して下さい。

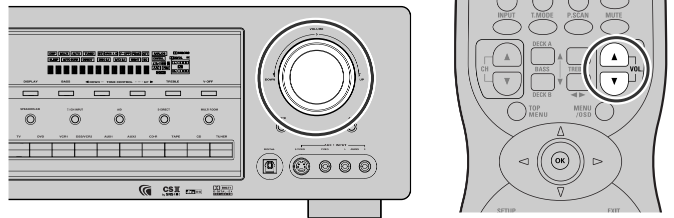
例）AUTOモードを選択する場合。



1. **本体の*SELECT*ダイヤルを回し、前面表示部にAUTOと表示が出るようにします。リモコンでは*AUTO*ボタンを押します。**

（他のサラウンドモードを選択する場合は、リモコンでご希望のサラウンドモードボタンを押して下さい）

音量を調整する

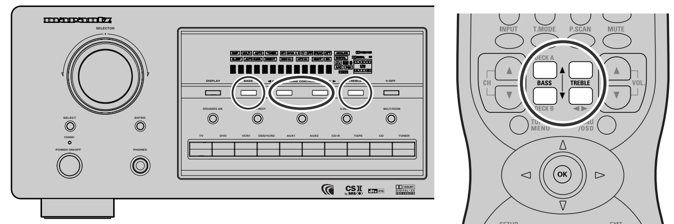


1. **本体の*VOLUME ダイヤル*を回すか、リモコンの*VOL*（▲）、（▼）*ボタン*を押してお好みの音量に調整します。**

- 音量を上げるにはVOLUMEツマミを右に回すか、リモコンのVOL（▲）ボタンを押して下さい。
- 音量を下げるにはVOLUMEツマミを左に回すか、リモコンのVOL（▼）ボタンを押して下さい。
- 音量調整時には本体前面表示部及びOSDに調整レベルが表示されます。

トーンコントロール

スピーカー音声出力のBASS（低音域）、TREBLE（高音域）の調整が各々調整可能です。それぞれ、+/ー 6段階まで調整ができます。



BASS（低音域）コントロール

- **本体の*BASSボタン*を押して前面表示部に"BASS"を表示させせます。**
- **本体の*UP/DOWNボタン*をを押してお好みのレベルに調整して下さい。リモコンの場合Bass（▲）または（▼）ボタンを押してお好みのレベルに調整して下さい。**

TREBLE（高音域）コントロール

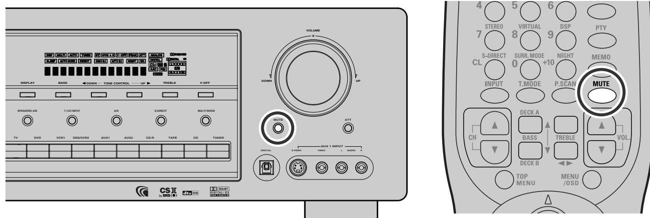
- **本体の*TREBLEボタン*を押して前面表示部に"TREBLE"を表示させます。**
- **本体の*UP/DOWNボタン*を押してお好みのレベルに調整して下さい。リモコンの場合Treble（▲）または（▼）ボタンを押してお好みのレベルに調整して下さい。**

ご注意

- トーンコントロールはサラウンドモード、再生状態、あるいは入力信号によっては使用できない場合があります。

ミュート機能

本機で再生動作をしている最中に、リモコンで一時的にスピーカーからの音声を消すことができます。



1. **本体の*MUTE*ボタンまたはリモコンの*MUTE*ボタンを押します。音声出力が消えます。**

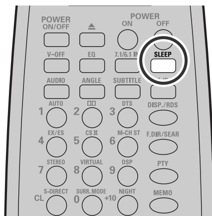
本体前面表示部、OSDにMUTEと表示れます。

2. **ミュートを解除したい場合は、再度本体もしくはリモコンの*MUTE*ボタンを押します。**

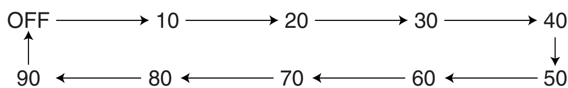
音声が再び出力されます。またリモコンのボリュームコントロールによってもミュートは解除されます。

スリープタイマーを使う

設定した時間で自動的に電源がスタンバイ状態になる機能です。最大90分まで設定可能です。



1. **リモコンの*SLEEP*ボタンを押します。押す毎に前面表示部の設定時間表示が以下の様に変わります。**



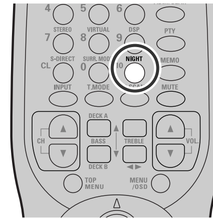
2. **ご希望の時間で約 2 秒間お待ち下さい。スリープタイマーがセットされます。**

前面表示部内のSLEEPが点灯します。

3. **スリープタイマーを解除したい場合は、上記の手順1.と2.を行ってOFFを選択して下さい。**

ナイトモード

夜間等に再生音のダイナミックレンジを押さえて、全体の音量を上げずに小さな音声を聞きやすくすることができます。本動作は、リモコンにて切り替えを行います。
ナイトモードの効果は、ドルビーデジタルのソフトによって設定されいます。本動作に対応していないソフトには効果がない場合があります。



1. **リモコンの*NIGHT*ボタンを押します。**

本体前面表示部内のNIGHTが点灯します。

2. **ナイトモードを解除したい場合は、再度リモコンの*NIGHT*ボタンを押します。**

本体前面表示部内のNIGHTが消えます。

サラウンドモードについて

本機は以下のような多種のサラウンドモードを持っております。再生するソースやお好みに応じて各種モードを使い分ける事が可能です。
入力ファンクション毎にこれらのサラウンドモードはメモリーされます。
入力信号によって各サラウンドモードの再生状態が変わります。（サラウンドモード/入力信号対応表を参照）

AUTO（オート　サラウンド）

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に再生状態を切り替えます。
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビーサラウンド　、DTS、DTS-ES、AAC、PCM、96kPCMなどの信号フォーマットを検出してそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。
基本的に、入力信号がPCM信号の場合はSTEREO再生を行います。ドルビーデジタルやDTS、AACの場合それぞれのチャンネル数に応じた再生を行います。

DD モード

（DOLBY DIGITAL, PRO LOGICⅡ－Movie、Music、PRO LOGIC）
DVDなどのドルビーデジタル5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。
2ch入力信号に対してはドルビープロロジックⅡ再生を行うことができます。
従来のプロロジックは、フロント3ch、リアはモノ（1ch）の4ch構成となっていました。またサラウンドチャンネルに再生帯域に制限があり、上限が７kHzでした。プロロジックⅡは、ドルビーデジタルと同じように、フロント3ch、リア2chのフルバンド5chで構成されており、自然なサラウンド表現が可能です。
プロロジックⅡモードはMovie（ムービー）モードとMusic（ミュージック）モード、プロロジック互換モードの3種から選択できます。リモコンのDD ボタンを押して選択してください。

PRO LOGICⅡ-Movieモードは映画再生にパラメータを最適化したものです。ドルビーサラウンド・エンコード作品は、このモードで視聴するとより効果的です。

PRO LOGICⅡ-Musicモードは音楽再生に最適化したパラメータを持たせております。サラウンドchは定位よりも包囲感が得られるチューニングになっています。このモードは通常のステレオ録音された音楽などを再生するときに用いる事ができます。Musicモードではお好みに合わせて各種パラメーター調整を施すことが可能です。（ PLⅡパラメーター 設定の項参照）

PRO LOGICモードは従来のプロロジック再生互換があります。ドルビーサラウンド録音ソースに対しそのまま忠実なデコードをします。

ご注意

- 本モードは2ch信号入力の場合はプロロジックII再生を行いますがドルビーデジタル5.1ch信号が入力された場合は自動的にドルビーデジタル5.1ch再生に切り替わります。

  本モードでは例えドルビーデジタルEX信号が入力されてもEX（6.1ch）再生はしません。

  EX再生をする場合はEX/ESモードを選んで下さい。

DTS モード（dts、Neo:6-CINEMA、Neo:6-MUSIC）

DVDなどのdts5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。
2ch信号入力（アナログ信号入力を含む）に対してはNeo:6-Cinema、Neo:6-Musicの選択が可能です。リモコンの***dts*** ボタンを押して選択してください。
dts-Neo:6は２チャンネル記録された入力信号から６チャンネルのフルバンドチャンネルを再生します。
Neo:6-Cinema（シネマ）とNeo:6-Music（ミュージック）の2種類のマトリックス・モードが選択できます。
Neo:6-Cinema はサラウンド・エンコーディングされた映画のサウンド・トラック用のマトリックス・モードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
Neo:6-Music は従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するためのマトリックス・モードです。

ご注意

- 本モードでは、たとえdts-ES信号が入力されてもES（6.1ch）再生はしません。ES再生をする場合はEX/ESモードを選んで下さい。

  Neo:6再生は各種2ch信号入力時にのみ選択できます。

EX/ES

ドルビーデジタル5.1ch、AAC-5.1chの場合、一旦5.1chデコードをした後にマトリクス処理を施すことにより、サラウンドバック信号を付加します。
ドルビーデジタルEX処理を施して記録された入力信号では、サラウンド空間再生の定位感が向上します。
しかし、サラウンドEX 処理が施されていない5.1ch信号に対しては不自然な定位再生になることがあります。
（詳しくはDVDのパッケージなどを参照して、本モードに切り替えてください）
DTS-ES信号入力の場合、信号内に記録された判別信号によってDiscrete-6.1、 Matrix-6.1の再生方式を切り替えてDTS-ES処理を行います。通常の5.1ch-DTS信号入力の場合、一旦5.1chデコードをした後にMatrix-6.1処理を施してサラウンドバック信号を付加します。

ご注意

- 入力信号にL、R独立したサラウンド信号成分が記録されている場合に有効です。よってPCM信号、アナログ信号などの入力時はこのモードは使用できません。

  また、セットアップのスピーカー設定にてサラウンドバックスピーカーを使用している設定の場合にのみ有効です。サラウンドバックスピーカーを使用しない設定の場合、このモードは使用できません。

CSⅡ（サークルサラウンドⅡ）

通常のVTRやCDなどのステレオやモノラル等、あらゆる素材を6.1ch音場再生することが出来るモードです。
CSⅡ-CinemaとMusicおよびMonoの３種類のモードがあります。リモコンの***CSII*** ボタンを押して選択してください。
CSⅡ-Cinema（シネマ）
映画などのサウンド・トラック用の再生に適したモードでVTR等の2chソースから6.1chのサラウンド再生が可能です。
CSⅡ-Music（ミュージック）
CDなど従来のステレオ音楽を6.1chにて再生するするのに適したモードです。
CSⅡ-Mono(モノ)
モノラル録音された映画素材やTV放送でさえも、6.1ch再生を可能にします。

またCSⅡモードではお好みに合わせて各種パラメーター調整（Trubass、SRS DIALOG）を施すことが可能です。（ CSⅡパラメーター 設定の項参照）

ご注意

- CSII再生は各種2ch信号入力時にのみ選択できます。

MULTI-CH. STEREO（マルチチャンネル・ステレオ）

2ch 信号入力に対して独自の処理を施しマルチチャンネル（6.1ch）再生をします。
5.1ch信号入力に対してはそのまま再生します。

VIRTUAL（バーチャル）

2本のフロントスピーカーだけで、あたかもサラウンドスピーカーがあるようなサラウンド効果を再現します。
ドルビーデジタル、DTSやAACのマルチチャンネルソースにヴァーチャル処理を施して再生します。また2ch信号入力に対しては一旦サラウンド処理を施した後にヴァーチャル再生を行います。

STEREO （ステレオ）

入力信号のチャンネル数に関わらずステレオ再生を行います。よってたとえ5.1ch信号（ドルビーデジタル、DTSやAAC）が入力されている場合でも、フロントL/Rだけの再生となります。

S-DIRECT（ソース　ダイレクト）

スピーカー設定などによる周波数フィルターやディレイ、トーンコントロールなどの付加処理をバイパスします。よって入力信号を最短処理にて出力します。またアナログ信号入力時にはデジタル部の処理を停止して、高周波クロックなどの影響を最小限にします。入力信号への追従はAUTOモードと同じです。

ご注意

- このモードを選択すると、内部的にセットアップメニューのSPEAKER SIZEにおける各スピーカーの設定がすべてLARGEおよびSubWoofer=YESの設定状態で再生されます。
  またトーンコントロール、HT-EQなどの処理はすべて無効となります。

デジタル信号入力に関して

DVDプレーヤー等と本機をデジタル信号接続をして使用している場合に、プレーヤーによってはスキップ動作や音声切り替え等の操作時に音声が途切れたり、音声出力が遅れる場合があります。これは有害なノイズの発生を防ぐ為であり故障ではありません。

Dolby Surround EX 信号に関する注意

ドルビーデジタルEX再生はデジタル入力時のみ可能です。
ドルビーサラウンドＥＸ処理が施されたソースの再生にはEX/ESモードの使用を推奨します。
自動的にドルビーデジタルEX再生に切り替わらない場合、DVDのジャケットの表記などを参照の上、EX/ESモードに切り替えて下さい。
これはDVD内にSurround EX判別用信号が正確に記録されていない場合がある為です。

96kHz PCM信号に関する注意

96kHzPCM信号入力時はAUTO、STEREO、S-DIRECTが選択可能です。
DVDプレーヤーによっては96kHz PCM信号のデジタル出力に対応していない場合があります。詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱い説明書をご覧下さい。
DVDディスクによっては著作権保護の為、96kHz PCM信号のデジタル出力を禁止している場合があります。

DTS信号に関する注意

DTS信号の再生はデジタル入力時のみ可能です。
DTS-CDやDTS-LDを再生する場合、プレーヤーのアナログ音声出力からノイズが出力されている場合があります。必ずプレーヤーのデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続してご使用下さい。
上記ノイズ出力の理由により、本機でDTS-CDやDTS-LDを再生中はデジタル、アナログ入力の切り替え動作等を禁止している場合があります。一旦プレーヤー側をSTOP状態にしてから行ってください。

サラウンドモード / 入力信号対応表

サラウンドモード	入力信号	再生	出力チャンネル					前面表示	
			L/R	C	SL SR	SB	SubW	信号フォーマット表示	プログラムチャンネル表示
AUTO	Dolby Surr. EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL,S R, LFE
	Dolby D(2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic II movie	O	O	O	-	*	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS 96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM(Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz Stereo)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	O	O	O	-	O	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	O	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	-	ANALOG	-
S-DIRECT	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Dolby Digital 2.0	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic II movie	O	O	O	-	*	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, , R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	DTS 96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	PCM (Stereo)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	PCM 96kHz	PCM (96kHz Stereo)	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1	O	O	O	-	O	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
	AAC (2ch)	AAC 2.0	O	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	-	ANALOG	-
EX/ES	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS(5.1ch)	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	AAC (5.1ch)	AAC EX	O	O	O	O	O	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
DOLBY	Dolby D Surr. EX	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(PL II movie)	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
(PL II music)	Dolby D (2ch)	Pro Logic II	O	O	O	-	*	DD DIGITAL	L, R
(Pro Logic)	Dolby D (2ch Surr)	Pro Logic II	O	O	O	-	*	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	PCM (Audio)	Pro Logic II	O	O	O	-	*	PCM	L, R
	Analog	Pro Logic II	O	O	O	-	*	ANALOG	-
	AAC (2ch)	Pro Logic II	O	O	O	-	*	AAC	L, R
DTS	DTS-ES	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
(Neo:6 Cinema)	DTS 96/24	DTS 96/24	O	O	O	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
(Neo:6 Music)	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Neo:6	O	O	O	O	*	PCM	L, R
	Analog	Neo:6	O	O	O	O	*	ANALOG	-
	Dolby D (2ch)	Neo:6	O	O	O	O	*	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Neo:6	O	O	O	O	*	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	Neo:6	O	O	O	O	*	AAC	L, R
CS II Cinema	PCM (Audio)	CS II	O	O	O	O	O	PCM	L, R
CS II Music	Analog	CS II	O	O	O	O	O	ANALOG	-
CS II Mono	Dolby D (2ch)	CS II	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	CS II	O	O	O	O	O	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	AAC (2ch)	CS II	O	O	O	O	O	AAC	L, R
STEREO	Dolby Surr. EX	Stereo	O	-	-	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Stereo	O	-	-	-	*	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Stereo	O	-	-	-	*	DDDIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Stereo	O	-	-	-	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS 96/24	Stereo	O	-	-	-	O	dts 96/24	L, C, R, SL, SR, LFE
	DTS (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Stereo	O	-	-	-	*	PCM	L, R
	PCM 96kHz	Stereo	O	-	-	-	*	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	Stereo	O	-	-	-	O	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
	AAC (2ch)	Stereo	O	-	-	-	*	AAC	L, R
	Analog	Stereo	O	-	-	-	*	ANALOG	-
Virtual	Dolby Surr. EX	Virtual	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Virtual	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Virtual	O	-	-	-	-	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Virtual	O	-	-	-	-	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	Virtual	O	-	-	-	-	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	Virtual	O	-	-	-	-	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Virtual	O	-	-	-	-	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	Virtual	O	-	-	-	-	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
	AAC (2ch)	Virtual	O	-	-	-	-	AAC	L, R
	Analog	Virtual	O	-	-	-	-	ANALOG	-
Multi Ch. Stereo	Dolby Surr. EX	Dolby Digital EX	O	O	O	O	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	Dolby D (5.1ch)	Dolby Digital 5.1	O	O	O	-	O	DD DIGITAL	L, C, R, SL, SR, LFE
	Dolby D (2ch)	Multi Channel Stereo	O	O	O	O	*	DD DIGITAL	L, R
	Dolby D (2ch Surr)	Multi Channel Stereo	O	O	O	O	*	DD DIGITAL , DD SURROUND	L, R, S
	DTS-ES	DTS-ES	O	O	O	O	O	dts , ES	L, C, R, SL, SR, S, LFE
	DTS (5.1ch)	DTS 5.1	O	O	O	-	O	dts	L, C, R, SL, SR, LFE
	PCM (Audio)	Multi Channel Stereo	O	O	O	O	*	PCM	L, R
	AAC (5.1ch)	AAC 5.1ch	O	O	O	-	O	AAC	L, C, R, SL,S R, LFE
	AAC (2ch)	Multi Channel Stereo	O	O	O	O	*	AAC	L, R
	Analog	Multi Channel Stereo	O	O	O	O	*	ANALOG	-

- Dolby Digital (2ch Surr) : ドルビーサラウンド処理されたドルビーデジタル2ch信号
- * : サブウーファー他のスピーカーのLarge/Smallによってサブウーファー出力は異なります。

L/R : フロントスピーカー
C : センタースピーカー
SL/SR : サラウンドスピーカー
SB : サラウンドバックスピーカー
SubW : サブウーファースピーカー

その他の機能

ここからの説明におけるリモコンの操作は、リモコンの動作モードをAMP（リモコンの表示部にAMPと表示されている）にした状態です。AMPモードにするにはリモコン上のAMPボタンを一度押して下さい。

テレビオート機能（TV-AUTO ）

本機をテレビと連動させて、自動的に電源を入れたり、スタンバイにする事ができます。テレビの電源を入れると本機の電源が入り、テレビの電源を切ると本機は5分後にスタンバイになります。

1. **本機能を使う場合は、OSDメニューシステムのPREFERENCE にてTV-AUTO：ENABLEの設定を行って下さい。（19ページ参照）**

2. **本機能を使用する場合必ずテレビ側のVIDEO（ビデオ）信号出力端子と本機のテレビ用VIDEO（ビデオ）信号入力端子を接続して下さい。**

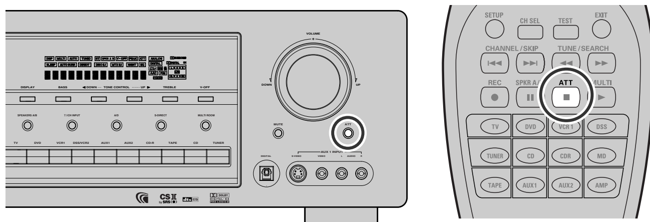
3. **電源ON状態からスタンバイになる動作は、本機の入力切り替えでTVを選択している場合にのみ有効です。**

ご注意

- 本機の主電源を切っている状態では、この機能は働きません。主電源をいれた状態で使用してください。
- STANDBY MODE（スタンバイモード）をECCONOMYに設定している場合、この機能は働きません。本機能を使用する場合はSTANDBY MODEをNORMALに設定してください。
- 本機能は、S-Video入力端子には対応しておりません。ご利用の際は必ずVIDEO入力端子を使用して下さい。

アッテネート機能

アナログ信号入力を本機にて再生している場合、前面表示部内のPEAKが点灯する場合があります。これは、本機の内部処理に対して入力信号レベルが大きすぎること意味します。このとき、アッテネート機能によってアナログ入力信号レベルを減衰させることができます。



- 本機能は、アナログ入力が選択されている場合に有効です。
- 本機能は、各入力ファンクション毎にメモリーされます。例えば、CDを選択し本機能を動作させ、他の入力に切り替えた後に、再びCDを選択した時に、本機能は有効になっています。

1. **本体あるいはリモコンの*ATT* ボタンを押します。**

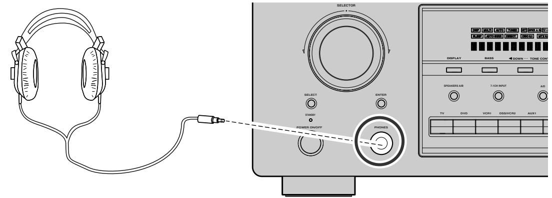
本体前面表示部内のATTが点灯し、動作状態を表示します。アナログ入力信号レベルがおよそ半分に減衰されます。

2. **アッテネート機能を解除したい場合は、再度*ATT*ボタンを押します。**

ATT表示が消えます。アナログ入力信号レベルがもとに戻ります。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンの標準ステレオジャックをPHONES端子に接続します。
接続するとスピーカーからの出力は自動的に切れます。
サラウンドモードは自動的にステレオモードになります。
サラウンドモードの切り替えは禁止されます。ただしS-DIRECTは選択可能です。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンの使用をお勧めします。

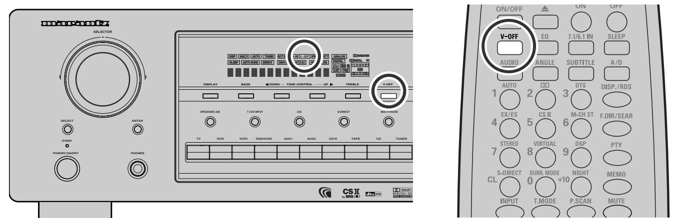


⚠ 警 告

ヘッドホンの音量が大きすぎると、耳を傷めることがあります。音量が大きくならないように注意してください。

V-OFF（ビデオ出力OFF）機能

この機能は、PS7300の各映像出力端子（Video、S-Video、コンポーネントビデオ）の出力を停止します。これにより、ビデオ信号の内部処理を停止し、オーディオ系への不要な干渉を低減させます。



1. **リモコンの*V―OFF* ボタンを押します。**

2. **ビデオ出力On/Offを解除したい場合は、再度これらのボタンを押します。**

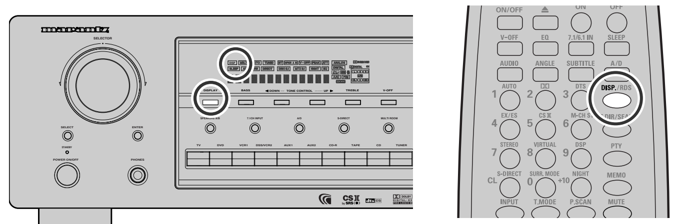
ご注意

- 本機能は映像信号用端子、VCR1 OUT、VCR2 OUTに対して有効です。またビデオ　オフ状態が選択されていてもOSDメニューを選択した場合はメニュー画面が出力されます。

本体表示部モード

本体前面表示部の 表示動作モードを選択できます。

入力表示モード：	選択した入力状態を表示します。
サラウンド表示モード：	選択したサラウンドモード状態を表示します。
Auto Display Off：	本機の操作をした場合に、5秒間表示した後 消灯します。
Display Off：	常に消灯した 状態です。



1. **本体の*DISPLAY* ボタンまたはリモコン*DISP* ボタンを押します。**

これらのボタンを押す毎に、表示動作状態が順番に切り替わります。

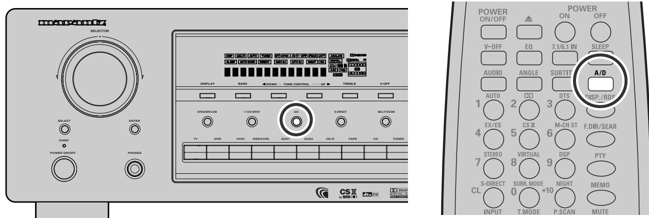
ご注意

- Display Off状態では、本体表示部内のDISPだけは識別の為点灯します。

入力モード切替

デジタル入力を設定したファンクションを選んでいる場合、以下の入力モードを一時的に切り替えることが可能です。

Digital-Auto： デジタル信号が約1.5秒以上入力されない場合、自動的にアナログ信号入力へ切り替えます。
Digital： デジタル入力に固定されます。
Analog： アナログ入力に固定されます。



1. 本体の*A/D* ボタンまたはリモコンの*A/D* ボタンを押します。

これらのボタンを押す毎に、入力モードが順番に切り替わります。

ご注意

- ここで選択した入力モードはあくまで一時的な切替です。入力ファンクションを切替えたり、スタンバイにした後は、OSD-MENUで設定した入力設定に戻ります。

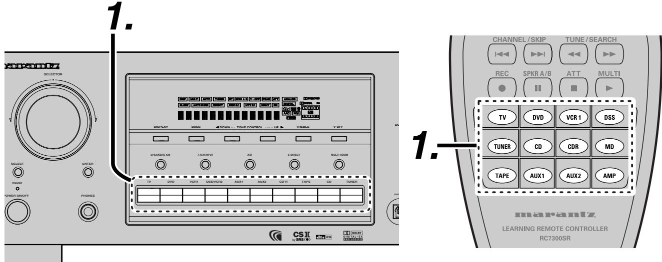
録音・録画をする

カセットテープ、CD-R、MDにアナログ信号で録音する

本機を操作してカセットテープ、CD-R、MDなどに録音することができます。このため本機はTAPE OUT端子、CD-R/MD OUT端子を装備しております。

例： 現在 CD入力にてCDを再生して聴きながら、TAPE にアナログ録音をする場合。
（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. 本体もしくはリモコンの入力ファンクション切り替えボタンを押して、CDの入力を選択します。



2. カセットデッキの入力設定（レベル設定等）をおこない、録音スタンバイ状態にします。

詳細はカセットデッキの取扱説明書をご覧下さい。

3. カセットデッキ録音状態にします。

4. CDプレーヤーを再生します。

録音が開始されます。

ご注意

- デジタル信号入力だけの接続の場合、TAPE OUT、CD-R/MD OUT端子への出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号入力の接続も行って下さい。
- TAPE OUT端子CD-R/MD OUT端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えばDVDを選択して再生している場合、この端子には本機のDVDアナログ入力端子への入力信号が出力されます。

ビデオデッキに録画/録音する

本機を操作してビデオデッキ等に録画をすることができます。このため本機はVCR1 OUT端子、VCR2 OUT端子を装備しております。

例：現在TV入力を選択して、ビデオテープレコーダーにTV入力信号をアナログ録画/録音をする場合。
（既に接続例のようにアナログ信号も接続されている状態）

1. 本体の入力ファンクション切り替えボタンを押して、TVの入力を選択します。

2. ビデオテープレコーダーの入力設定をおこない、録画スタンバイ状態にします。

詳細はビデオテープレコーダーの取扱説明書をご覧下さい。

3. ビデオテープレコーダーを録画状態にします。

録画/録音が開始されます。

ご注意

- デジタル信号だけの接続の場合、VCR1 OUT、VCR2 OUT端子の出力が得られません。録音機能を使用する場合は、アナログ信号の接続も行って下さい。
- VCR1 OUT端子（音声L/R、VIDEO、S-VIDEO）、VCR2 OUT端子（音声L/R、VIDEO、S-VIDEO）、この端子には、常に本機が再生状態にある機器からの入力信号が出力されます。例えば、TVを選択して再生している場合、この端子には本機のTV（VIDEO、S-VIDEO、アナログ音声）入力端子への信号が出力されます。
- またVideo信号入力からS-Video信号出力への変換、および逆のS-Video信号入力からVideo信号出力への変換は行いません。必ず同一の入出力にてご使用下さい。

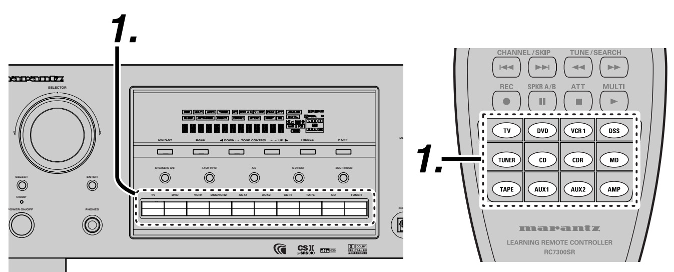
CD-R、MDなどにデジタル信号で録音する

本機はデジタル録音用のDIGITAL OUT端子としてピンプラグ(COAXIAL)形式と光形式(OPTICAL)を装備しております。
デジタル出力端子には入力ファンクション選択ボタンにて選んだ機器からのデジタル信号入力が出力されます。選択した入力ファンクションに、デジタル信号入力の設定をされていない場合は、出力されません。

例：現在DVD：DIG5入力にてCDを再生して聴きながら、MDにデジタル録音をする場合。
（既に接続例のようにデジタル信号が接続されている状態）

1. 本体の入力ファンクション切り替えボタン（DVD）を押して、DVDを選択します。

既にDIG.5はDVDに設定済みとします。



2. CD-RまたはMDプレーヤーのデジタル入力設定を行い、録音スタンバイ状態（シンクロREC等）にします。

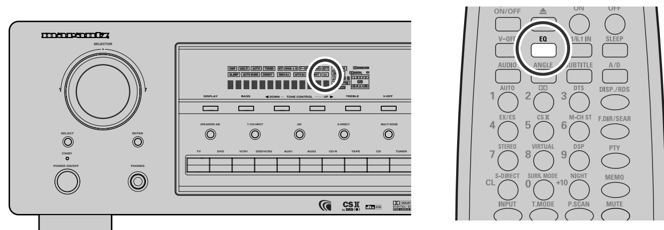
詳細は、CD-RまたはMDプレーヤーの取り扱い説明書をご覧下さい。

3. DVDプレーヤーを再生します。

録音が開始されます。

HT-EQ（ホームシアターイコライザー）

映画館ではフロントL/Rおよびセンタースピーカーがスクリーンの後ろにあるため、通常の映画ソフトはスクリーンでの減衰を見込んで高域を強調して録音されています。そのため家庭でこのようなソフトを再生した場合、映画館とは異なった信号特性となってしまいます。
本機では、映画館とホームシアターとの差異を補正するHT-EQ(ホームシアター・イコライザー)を搭載し、映画館と同等特性の再生をご家庭でお楽しみいただけます
この機能はサラウンドモードがAUTO、DOLBY、DTS、EX/ES、PRO LOGIC Ⅱ、Neo6 および STEREO のときに使用できます。



1. リモコンの*EQ* ボタンを押します。

本体前面表示部のEQが点灯し、ホームシアターイコライザーが働きます。

2. この機能を解除するには、再度リモコンの*EQ* ボタンを押します。

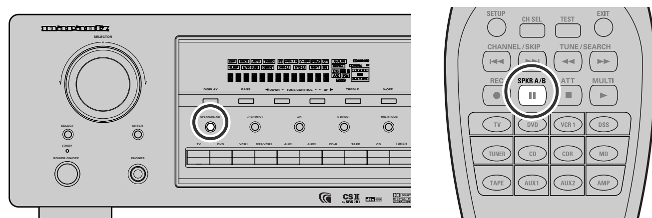
本体前面表示部のEQが消灯し、ホームシアターイコライザーが解除されます。

スピーカー A/B 切り替え

本機はフロントL/Rスピカーに対し、スピーカーシステムAとスピーカーシステムBの切り替えが可能です。本体もしくはリモコンの***SPKR A/B* ボタン**を押して切り替えます。

このボタンを押す毎に以下のように切り替わります。
スピーカーA → スピーカーB → スピーカーA+B → スピーカーオフ → スピーカーA →

お手持ちのシステムにあわせて選択してください。



ご注意

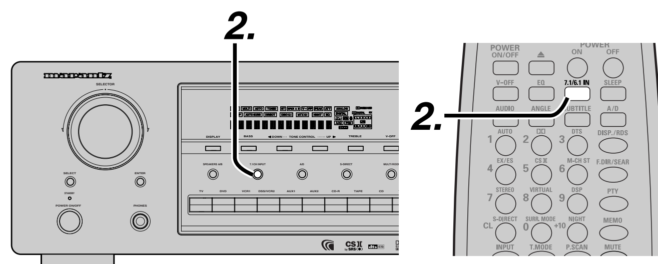
- ヘッドフォンを使用している場合はこれらの切り替えはできません。

7 .1CH INPUT

マルチチャンネルSACDプレーヤーやDVD-Audioプレーヤーなどのマルチチャンネル信号に対応するための7.1ch分の外部入力端子が搭載されています。本入力への信号は内部サラウンド処理をバイパスしてボリュームコントロールを通過した後、プリアウトおよび内部アンプに入力されます。（SubW入力はプリアウトのみ）
本機能はビデオ信号をラストメモリーとして働きます。

1. ご希望のビデオソースを入力しているファンクションを本体またはリモコンで選択します。

2. 本体またはリモコンの *7.1CH-IN* ボタンを押します。



もし7.1CH-INPUTの各チャンネルの音量バランスを調整したい場合はSETUP MENUの **"7.1CH. INPUT LEVEL"** を選択して、調整してください。（参照 22ページ）

3. 本体の*VOLUME* ツマミを回すか、リモコンの*VOL* (▲)、(▼) ボタンを押して、全体の音量をお好みのレベルに合わせてください。

4. 7.1CH－INPUTを解除する場合は、本体またはリモコンの*7.1CH-IN* ボタンを押します。

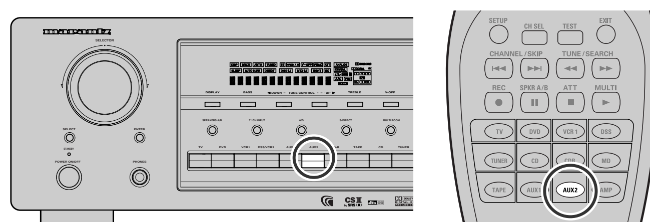
ご注意

- 7.1CH－INPUTを選択している場合、サラウンドモードは選択できません。7.1CH－INPUTを選択している場合、録音出力端子には信号は出ません。

AUX2入力

7.1CH-INPUT機能が不要の場合、本入力端子のFRONT L/R入力をAUX2端子としても使用可能です。この場合、他のオーディオ入力端子（CD,TUNERなど）と同様にサラウンドモードの選択、トーンコントロール、Tape-Out、VCR-outなどを機能させることができます。

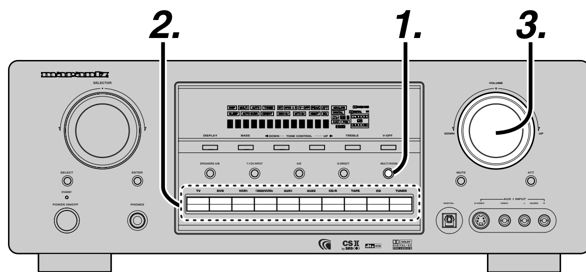
1. 本体もしくはリモコンの*AUX 2* ボタンを押して AUX2 を選択します。

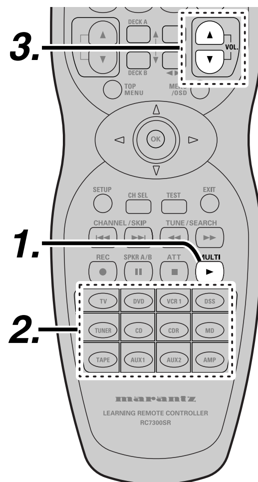


マルチルームシステム機能

本機に接続された機器を使って別室用アンプ（マランツSM6100など）を組み合せて、本機を置いてある部屋とは別の部屋で音楽や映画鑑賞をすることができます。

15 ページのように本機背面パネルのマルチルームシステム用AUDIO出力端子（L/R）を別室のパワーアンプに接続します。
必要に応じてマルチルームシステム用VIDEO出力端子を別室のTVなどに接続して下さい。
本機はこれらの出力用に独立した入力セレクターを内蔵しております。よって、別室では異なる入力ファンクションを選んで再生ができます。また音量調整なども独立しておこなえます。





1. **本体もしくはリモコンの*MULTI*ボタンを押します。**

本体前面ディスプレイに、"SELECT SOURCE"と表示されMULTIが点滅を開始します。マルチルーム機能設定状態になりました。

```
      MULTI ROOM
MULTI ROOM    : OFF

VIDEO         : DVD
AUDIO         : DVD
VOLUME SETUP  : VARIABLE
VOLUME LEVEL  :    -90 dB
SLEEP TIMER   : OFF
----MAIN-ROOM STATUS----
VIDEO:DVD      AUDIO:DVD
MAIN                 EXIT
```

2. **別室で再生したい入力ファンクションを本体の入力ファンクション切り替えボタン、またはリモコンの入力選択ボタンで選択します。**

選択した入力が本体前面ディスプレイに表示されます。本体前面ディスプレイの表示が" MULTI VOL"とかわります。

3. **別室での再生音量を、本体の*VOLUME ダイヤル*を回すか、リモコンの*VOL UP*、*DOWN*ボタンを押して調整します。**

M-VOL xx dBと設定値が表示されます。

4. **マルチルーム機能用のスリープタイマーを設定したい場合は、本体もしくはリモコンの*SLEEP*ボタンで設定します。**

設定手順は前述のスリープタイマーの項と同じです。

5. **数秒後マルチルーム機能設定モードが終了します。**

本体前面ディスプレイのMULTIが点滅から点灯に替わります。他は通常動作表示にもどります。

6. **本機能を解除する場合は、本体もしくはリモコンの*MULTI ボタン*を押します。**

本体前面ディスプレイのMULTIが消灯します。

リモコン操作

マランツ製機器のリモコン操作

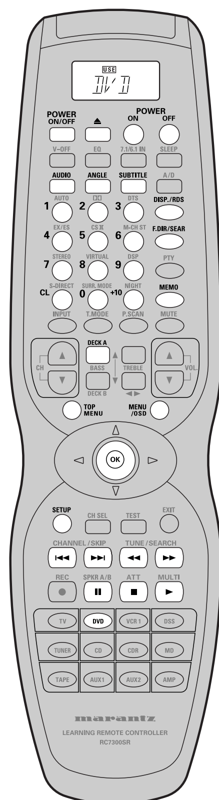
本リモコンは、初期設定状態にてマランツ製品の基本操作ができるようになっています。

1. **希望する機器のファンクションボタンを押して リモコンの動作モードを決定します。**

2. **希望する操作ボタンを押します。**

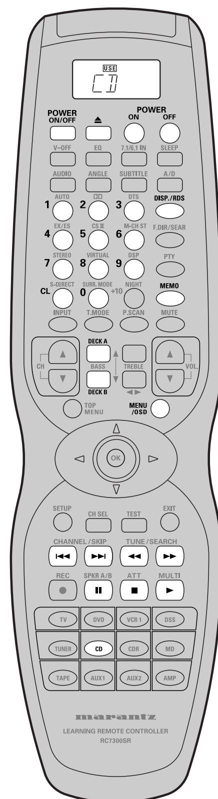
- 各機器の操作の詳細は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては、本機のリモコンにて操作できないものもあります。

DVD モード



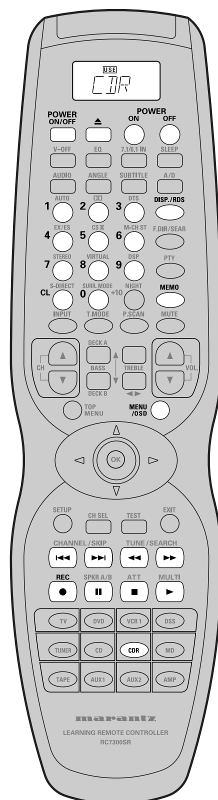
POWER ON/OFF	DVDプレーヤーの電源オン､スタンバイ
POWER ON	DVDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	DVDプレーヤーのスタンバイ
▲ (EJECT)	トレイの開閉
AUDIO	音声選択
ANGLE	アングル選択
SUBTITLE	字幕選択
0 - 9	数字の入力
DISP	画面表示のオン、オフ
F-DIR/SEAR	サーチのトラック、タイトル切り替え
CL	各種入力の取り消し
MEMO	プログラムの呼び出し
TOP MENU	DVDのトップメニュー表示
MENU/OSD	DVDディスクのメニュー呼び出し
カーソール	メニュー等でのカーソール移動
OK	メニュー等での選択の確定
SETUP	DVDプレーヤーの初期設定画面 呼び出し
⏮ / ⏭ (SKIP)	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶ (SCAN)	前方または後方へのスキャン
❚❚ (PAUSE)	一時停止
■ (STOP)	停止
▶ (PLAY)	再生

CD モード



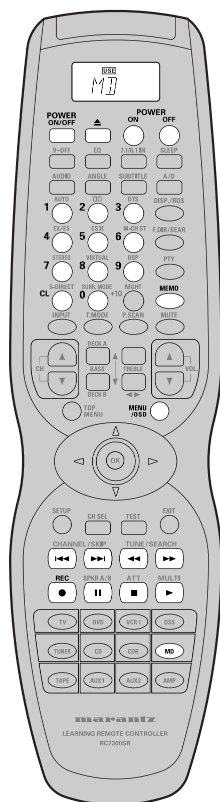
POWER ON/OFF	CDプレーヤーの電源オン、スタンバイ
POWER ON	CDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	CDプレーヤーのスタンバイ
▲ (EJECT)	トレイの開閉
0 - 9	数字の入力
DISP	CDテキスト等のスクロール
CL	各種入力の取り消し
MEMO	プログラムの呼び出し
DECK A,B	CDチェンジャーなどのディスク変更
⏮ / ⏭ (SKIP)	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶ (SCAN)	前方または後方へのスキャン
❚❚ (PAUSE)	一時停止
■ (STOP)	停止
▶ (PLAY)	再生

CDRモード



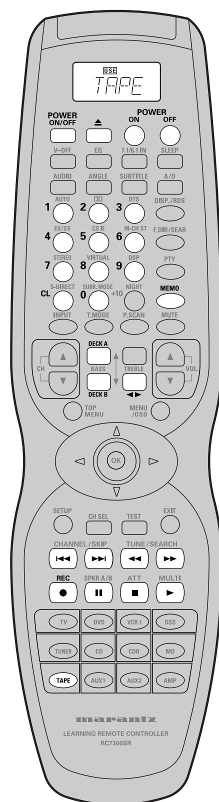
POWER ON/OFF	CDRプレーヤーの電源オン、スタンバイ
POWER ON	CDRプレーヤーの電源オン
POWER OFF	CDRプレーヤーのスタンバイ
▲(EJECT)	トレイの開閉
0 - 9	数字の入力
DISP	CDテキスト等のスクロール
CL	各種入力の取り消し
MEMO	プログラムの呼び出し
⏮ / ⏭ (SKIP)	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶ (SCAN)	前方または後方へのスキャン
● (REC)	録音
❚❚ (PAUSE)	一時停止
■ (STOP)	停止
▶ (PLAY)	再生

MDモード



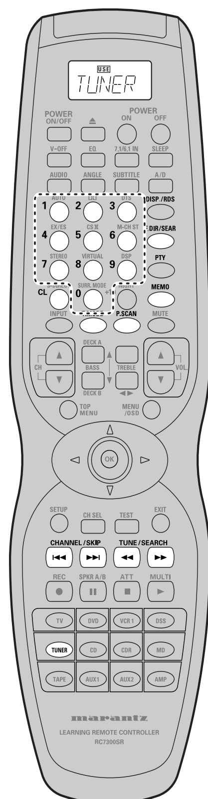
POWER ON/OFF	MDプレーヤーの電源オン、スタンバイ
POWER ON	MDプレーヤーの電源オン
POWER OFF	MDプレーヤーのスタンバイ
▲ (EJECT)	トレイの開閉
0 - 9	数字の入力
DISP	CDテキスト等のスクロール
CL	各種入力の取り消し
MEMO	プログラムの呼び出し
⏮ / ⏭ (SKIP)	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶ (SCAN)	前方または後方へのスキャン
● (REC)	録音
❚❚ (PAUSE)	一時停止
■ (STOP)	停止
▶ (PLAY)	再生

TAPE(カセットデッキ)モード



POWER ON/OFF	カセットデッキの電源オン、スタンバイ
POWER ON	カセットデッキの電源オン
POWER OFF	カセットデッキのスタンバイ
▲ (EJECT)	テープの取り出し
0 - 9	数字の入力
CL	各種入力の取り消し
MEMO	プログラムの呼び出し
DECK A,B	ダブルデッキの場合のA.B選択
◀ ▶ (DIRECTION)	テープの走行方向選択
⏮ / ⏭ (SKIP)	前方または後方のチャプター/トラックへの移動
◀◀ / ▶▶ (SCAN)	前方または後方へのスキャン
● (REC)	録音
❚❚ (PAUSE)	一時停止
■ (STOP)	停止
▶ (PLAY)	再生

TUNER モード



MEMO	プリセットメモリーなどの番号登録
CLEAR	メモリーや入力の消去
0-9	周波数やナンバーなどの数字入力
F.DIRECT	放送局の周波数を直接入力しての選局
CHANNEL/SKIP	登録した放送局の選択
TUNE/SEARCH	選局
T-MODE	受信モード(ステレオまたはモノラル)モードの選択
P.SCAN	プリセットスキャン開始

ラーニング(学習)機能

本リモコンのラーニングモードを使って、お手持ちのリモコンのコードを学習・記憶させることができます。

- 赤外線方式のリモコンであれば、ほとんどのA/V機器のコードをラーニング(学習)できます。
- 各ファンクションごとの各ボタンに学習可能です。ラーニングしなかった部分は、もともと入っているマランツ用のリモコンコードが出力されます。

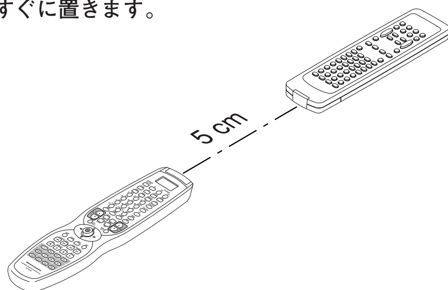
ご注意

- AMPファンクションにはラーニングさせることはできません。また各ファンクションボタン(TV, DVD, VCR1, DSS, TUNER, CD, CDR, MD, TAPE, AUX1, AUX2, AMP)にはラーニングさせることはできません。

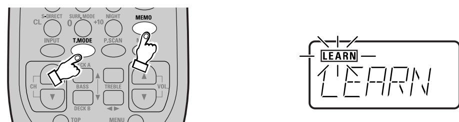
ラーニング方法

例) 本リモコンのDSS ファンクションにお手持ちのリモコンコードをラーニングする場合。

1. 本リモコンの受光部とお手持ちのリモコンの送信部を 5 cmほど離してまっすぐに置きます。



2. 本リモコンの表示部にLEARNと表示されるまで(LEARNモード) *T.MODEボタンとMEMOボタン*を同時に押し続けます。



3. ラーニングを希望するファンクションのボタン(ここではDSS)を押します。表示部にファンクション名(DSS)が表示され、LEARN表示が点滅します。



4. ラーニングしたいボタンを押します。表示部のLEARNが点灯にかわり、リモコンコード受信可能状態になります。



5. 本リモコンの表示部にOKと表示されるまで、受光部にむけて、お手持ちのリモコンのラーニングさせたいボタンを押し続けます。

- 表示部にNGと表示された場合は、もう一度希望するボタンを選択して、LEARN表示を点灯状態にさせて上記操作をおこなってください。
- 表示部にFULLと表示された場合、本リモコンのメモリーがいっぱいになっております。不要なボタンの学習を消去して再度ラーニングをおこなって下さい。

6. 同じファンクションの他のボタンにラーニングさせる場合は、上記手順4から6を繰り返してください。

7. 違うファンクションのボタンにラーニングさせる場合は、上記手順3から6を繰り返してください。

8. ラーニングが完了したら、*OKボタン*を押し続けて表示部にUSEを表示させてください(USEモード)。



以上でラーニング作業は終了です。

ご注意

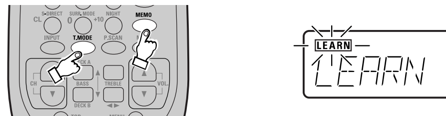
- 手順5にて表示部に再三NGが表示される場合は、お手持ちのリモコン仕様が本リモコンのラーニング対象外となっている場合がありますので、ご了承ください。
- LEARNモード状態でおよそ1分間なにも操作をしなかった場合、自動的にUSEモードに切り替わります。

ラーニングしたリモコンコードの消去

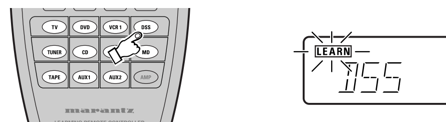
●ボタンごとの消去方法

学習させたボタンを1つずつ消去させる場合は以下の手順にておこなってください。

1. 本リモコンの表示部にLEARNと表示されるまで(LEARNモード) *T.MODEボタンとMEMOボタン*を同時に押し続けます。



2. ラーニングを消去したいファンクションのボタン(ここではDSS)を押します。表示部にファンクション名(ここではDSS)が表示され、LEARN表示が点滅します。



3. *CLボタン*を押しながら、ラーニングを消去したいボタン2回押します。

表示部にCLRと表示され、選択したボタンのコードが消去されます。CLRが表示が約3秒間表示されたのちLEARNモードに戻ります。他のボタンを消去したい場合は上記手順を繰り返して下さい。



4. 消去作業を完了したら、*OKボタン*を押し続けて表示部にUSEを表示させてください(USEモード)。

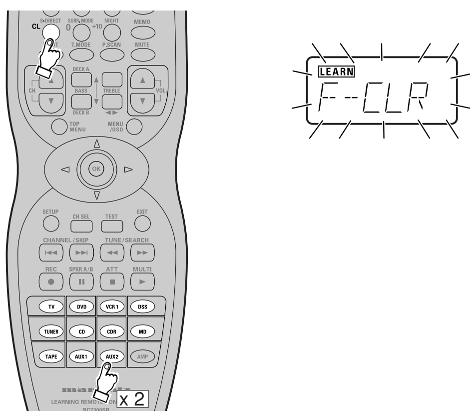
●ファンクションごとの消去方法

学習させたボタンをファンクション毎に全て消去させる場合は以下の手順にておこなってください。

1. 本リモコンの表示部にLEARNと表示されるまで（LEARNモード）*T.MODEボタン*と*MEMOボタン*を同時に押し続けます。

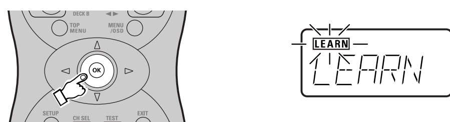


2. *CLボタン*を押しながら、ラーニングを消去したいファンクションボタン2回押します。表示部にF-CLRと点滅表示されます。



3. ここで消去作業を確定する場合は*OKボタン*を押して下さい。消去作業をキャンセルする場合は*OKボタン以外のボタン*を押して下さい。

- 消去作業を確定した場合、約3秒間F-CLRが点灯表示にかわり、消去作業が終了します。
- 消去作業を完了もしくはキャンセルした場合、LEARNモードにもどります。



4. *OKボタン*を押し続けて表示部にUSEを表示させてください（USEモード）。

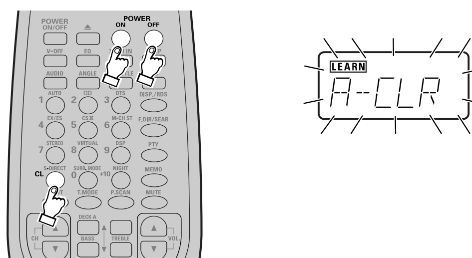
● 全てのラーニングの消去方法

学習させたボタン全てを消去させる場合は以下の手順にておこなってください。

1. 本リモコンの表示部にLEARNと表示されるまで（LEARNモード）*T.MODEボタン*と*MEMOボタン*を同時に押し続けます。



2. *CLボタン*を押しながら、*POWER ONボタン*と*POWER OFFボタン*を同時に押します。表示部にA-CLRと点滅表示されます。



3. ここで消去作業を確定する場合は*OKボタン*を押して下さい。消去作業をキャンセルする場合は*OKボタン以外のボタン*を押して下さい。

- 消去作業を確定した場合、約３秒間A-CLRが点灯表示にかわり、消去作業が終了します。
- 消去作業を完了もしくはキャンセルした場合、LEARNモードにもどります。



4. *OKボタン*を押し続けて表示部にUSEを表示させてください（USEモード）。

ご注意

- 全てのボタンのラーニング消去をおこなった場合、各ボタンのリモコンコード設定は出荷時のの状態となります。

マクロ機能

一連の連続したボタン操作をファンクションボタンを押すことで可能にする機能です。
10回の連続したボタン操作を、ファンクションボタン毎にプログラムすることができます。
例えば次のように連続動作させることができます。

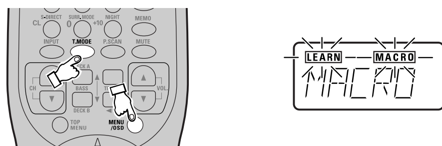
アンプの電源をONにする
↓
ファンクションをDVDにする
↓
サラウンドモードをVIRTUALにする
↓
DVDプレーヤーの電源をONにする
↓
DVDプレーヤをプレイさせる

この一連の動作を本機リモコンのファンクションボタンを押すことでおこないます。
これらの連続したボタン操作は、ファンクションボタン（TV, DVD, VCR1, DSS, TUNER, CD, CDR, MD, TAPE, AUX1, AUX2, AMP）にプログラムする必要があります。この場合、本機をマクロプログラムモードに設定してプログラミングを行います。

マクロのプログラム方法

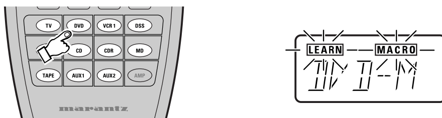
1. **本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで（マクロプログラム状態）*T.MODEボタン*と*MENUボタン*を同時に押し続けます。**

LEARNとMACROが点滅します。



2. **マクロプログラムを希望するファンクションのボタン（ここではDVD）を押します。**

表示部にマクロプログラムをおこなうファンクション名（ここではDVD—M）が点灯表示され、LEARNおよびMACRO表示が点滅します。



- 選択したファンクション毎に以下のような表示がされます。

TV-M, DVD-M, VCR-M, DSS-M, TUN-M, CD-M, CDR-M, MD-M, TAP-M, AX1-M, AX2-M, AMP-M

- すでにマクロがプログラムされているファンクションを選択した場合は、そのファンクション名が点滅表示されます。

3. **一連の操作を順番に入力します。**

- 例えばDVDのPLAYを入れる場合、DVDボタンを押して、PLAYボタンを押します



- ボタンを押す毎にそのマクロプログラムのステップ数が表示部に現れます。（例：DVD-1 → DVD-2 → DVD-3 → ..... DVD-0）
- 各ファンクションボタンに それぞれ10ステップの操作がプログラム可能です。
- 但しマクロプログラムにはMEMO, VOL▲, VOL▼, CL, カーソル, OKなどのボタン操作はプログラムできません。

4. **マクロプログラムが完了したら、*OKボタン*を3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください（USEモード状態）。**



以上でマクロプログラム作業は終了です。

ご注意

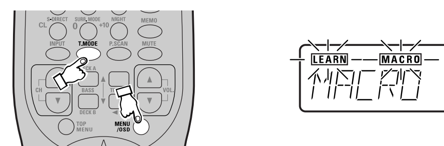
- マクロモードでのファンクション操作は複数回記憶できます。
- AMPボタン以外のDVD、CD、TV等11種類のボタンのうち、最初に記憶させたファンクションだけが本機から送信されます。これは、アンプの入力が切り替わるのを防ぐためです。
- 1つのマクロボタンの中では複数回のアンプの入力切り替えはできません。

マクロプログラムの確認

上記マクロプログラムによって設定した一連の動作を１ステップづつ確認することができます。

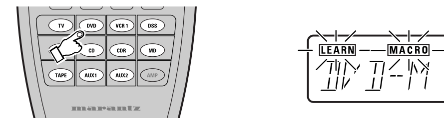
1. **本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで（マクロプログラム状態）*T.MODEボタン*と*MENUボタン*を同時に押し続けます。**

LEARNとMACROが点滅します。



2. **確認したいマクロプログラムのあるファンクションのボタン（ここではDVD）を押します。**

表示部にマクロプログラムをおこなうファンクション名（ここではDVD—M）、LEARNおよびMACRO表示が点滅します。



3. ***VOL▲ ボタン*を押します。プログラムされているステップ１のリモコンコードが送信されます。**

ステップ表示が１になり（ここではDVD-1）LEARN表示が消えて、MACRO表示だけが点滅します。



4. ***VOL▲ ボタン*を押す毎に次のステップのリモコンコードが送信されます。**

これを繰り返し各ステップにプログラムされたリモコンコードを確認できます。

5. **プログラムされた最終ステップを確認した後、1のマクロプログラム状態に戻ります。**

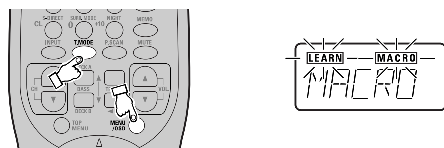
- 再度、確認作業をおこないたい場合は 2からの操作をおこなって下さい。
- 通常状態に戻りたい場合は、OKボタンを3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください（USEモード状態）

マクロプログラムの変更

設定し終わったマクロプログラムを変更することができます。

1. 本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで(マクロプログラム状態)*T.MODE*ボタンと*MENU*ボタンを同時に押し続けます。

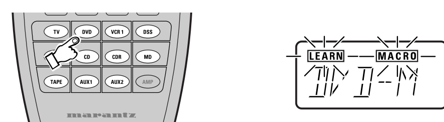
LEARNとMACROが点滅します。



2. 変更したいファンクションボタン(ここではDVD)を押します。

表示部にマクロプログラムをおこなうファンクション名(ここではDVD—M)、LEARNおよびMACRO表示が点滅します。

プログラムされていない場合はファンクション名(ここではDVD—M)が点灯表示され、マクロのプログラム状態になります。



3. カーソルボタン(▲, ▼)を押します。押す毎にプログラムされているステップが変わります。

カーソル UP(▲)ボタンを押すとステップ番号が増加し、カーソルDOWN(▼)ボタンを押すとステップ番号が減ります。この操作で変更したいステップを選択します。

- **上書きで変更をする場合**

変更したいステップで新しく記憶させるボタンを押します。

前にプログラムされていた内容が消去され、書き替わります。

- **プログラムのステップ間に別の操作を挿入する場合**

以下の手順でおこないます。

(a) 手順3の操作の後、*MEMO*ボタンを押してから、新しく記憶させるボタンを押します。

今まであったプログラムは次のステップに順々に繰り下げられます。10ステップ以上はプログラムできないので、10番目のプログラムは消去されます。

(b) プログラムの一部を消去したい場合は、手順3の操作を行って消去したいステップを出し、*CL*ボタンを押します。

4. *OK*ボタンを一度押すと 1 の状態に戻ります。

5. 通常状態に戻りたい場合は、*OK*ボタンを3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください(USEモード状態)

ご注意

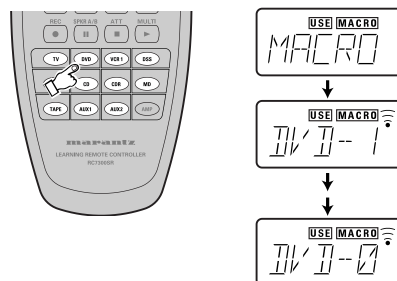
- プログラムの変更中ボタンが押されずに放置されたときは、約1分でマクロにする前のモードに戻ります。
- この時のマクロのプログラム変更は記憶されません。

マクロモードで機器を操作する

ファンクションにプログラムしたマクロを実行します。

1. プログラムを実行したいファンクションボタンを3秒間押します。

2. LCD表示部 にMACROの表示(約1秒)された後、プログラムされたリモコンコードが順次送信され、LCD表示部にステップ数が表示されていきます。



プログラムがされていない時は、ボタンを押しても受け付けません。

3. プログラムの送信が終わると、本機のリモコンはAMPモードの状態に戻ります。

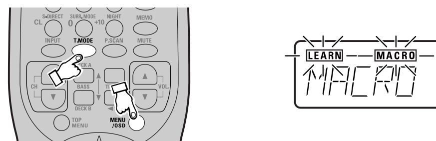
マクロプログラムの例

例1. CDボタンへのマクロプログラム

アンプのファンクションをCDに切り替えてCDのトラックNo.3をプレイする。

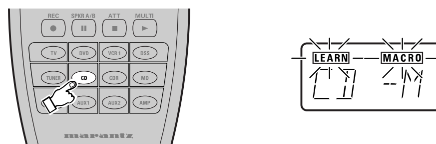
1. 本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで(マクロプログラム状態)*T.MODE*ボタンと*MENU*ボタンを同時に押し続けます。

LEARNとMACROが点滅します。

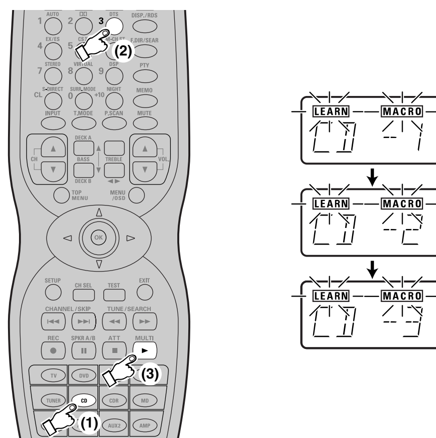


2. *CD*ボタンを押します。

表示部にCD—Mと点灯表示され、LEARNおよびMACRO表示が点滅します。



3. *CD*ボタン、「*3*」ボタン、*PLAY*ボタンを順に押します。



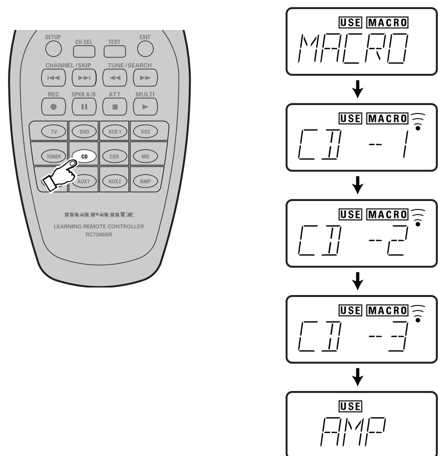
4. マクロのプログラムが終了たら、*OKボタン*を3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください。(USEモード状態)



例1 でプログラムしたマクロを実行します。

1. *CDボタン*を3秒間押します。プログラムが順次送信されます。

LCD表示部には、プログラムのステップが順に表示されます。

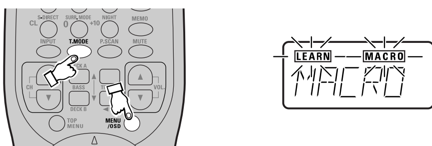


例2. DVDボタンへのマクロプログラム

アンプの電源をONにする→アンプのファンクションをDVDにする→サラウンドモードをVIRTUALにする→DVDプレーヤをプレイにする。

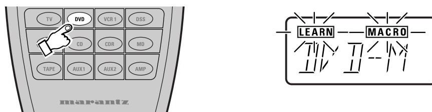
1. 本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで(マクロプログラム状態)*T.MODEボタン*と*MENUボタン*を同時に押し続けます。

LEARNとMACROが点滅します。

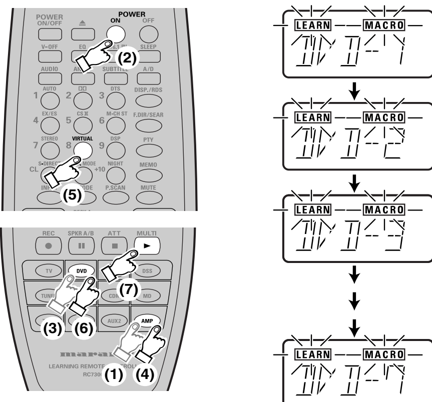


2. *DVDボタン*を押します。

表示部にDVD -Mと点灯表示され、LEARNおよびMACRO表示が点滅します。



3. *(1)AMP → (2)POWER ON → (3)DVD → (4) AMP → (5)VIRTUAL → (6)DVD → (7)PLAY のボタン*を順に押します。



4. マクロのプログラムが終了たら、*OKボタン*を3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください。(USEモード状態)

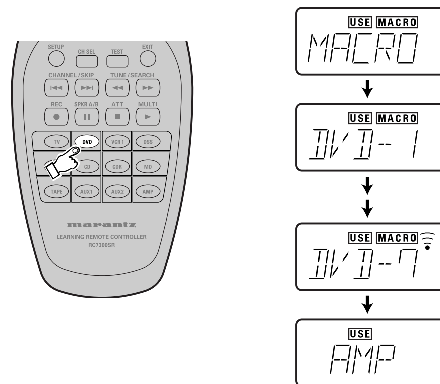


例2 でプログラムしたマクロを実行します。

1. *DVDボタン*を3秒間押します。

プログラムが順次送信されます。

LCD表示部には、プログラムのステップが順に表示されます。



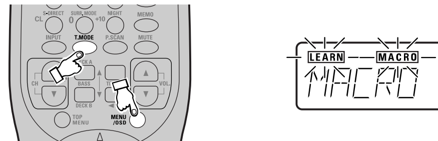
このマクロを実行したときには、ファンクション操作のAMP*、DVD*の箇所ではリモコンの動作モードが切り替わるだけで、信号は送られず、アンプのファンクションは変化しません。

マクロプログラムの消去

ファンクションボタンに記憶したプログラムを消去します。

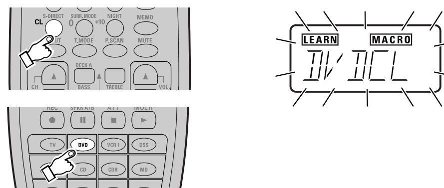
1. 本リモコンの表示部にMACROと表示されるまで(マクロプログラム状態)*T.MODEボタン*と*MENUボタン*を同時に3秒以上押し続けます。

LEARNとMACROが点滅します。

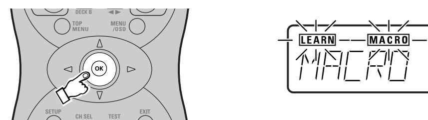


2. *CLボタン*を押したまま消去したいマクロプログラムが設定されたファンクションボタン(例 DVD)を3秒間押します。

LCD表示部AにDVDCLが点滅表示されます。



3. 消去するときには、*OKボタン*を一度押します。消去をやめるときは、*OK以外のボタン*を押します。



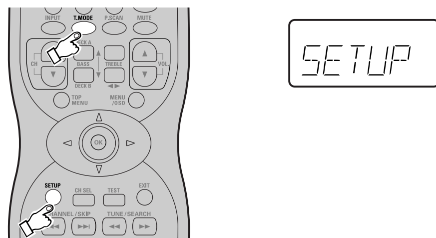
4. 作業が終了たら、*OKボタン*を3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください。(USEモード状態)

マクロ動作の送信間隔の設定

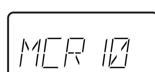
お使いの機器によっては、マクロプログラムの実行の各ステップ間に十分な時間を必要とする場合があります。その為、この送信間隔の調整ができます。

1. **本リモコンの表示部にSETUPと表示されるまで（セットアップ状態）*T.MODEボタン*と*SETUPボタン*を同時に3秒以上押し続けます。**

LEARNとMACROの表示は消えます。

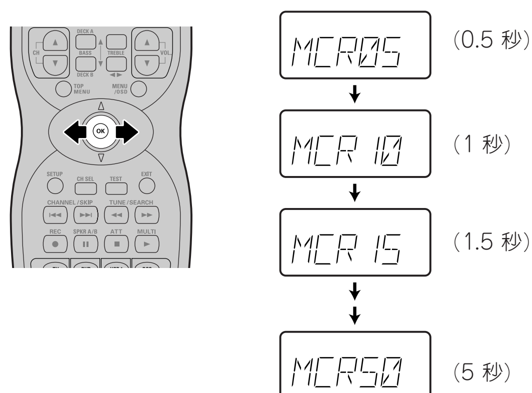


2. **表示がSETUPからMCR x x に変わるのを確認して下さい。（ x x は送信間隔時間を表しています）**

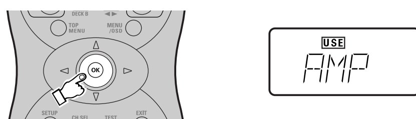


3. **カーソルボタン（◀, ▶）ボタンを押すと、送信間隔時間を変更できます。**

この時間は0.5秒から5秒の間で 0.5秒間隔で設定可能です。



4. **作業が終了たら、*OKボタン*を3秒以上押し続けて、表示部にUSEを表示させてください。（USEモード状態）**



故障かな?と思ったときは

症　状	原　因	処　置
本機の電源が入らない。	電源コードが抜けている。	電源コードを正しく接続してください。
本機の電源が入っているが、映像や音声が出ない。	ミュート機能がオンになっている。	リモコンを使ってミュート機能を解除してください。
	本機への各種ケーブルの接続が正しくない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	音量調整が最小になっている。	音量を適当な位置に調整してください。
	選択した入力ソースの機器が間違っている。	正しいソースを選択してください。
選択した機器からの音声や映像が出ない。	本機への入力ケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
全てのスピーカーから音が出ない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外してください。（ヘッドホーンが接続されている間は、スピーカーから音声は出ません。）
特定のスピーカーから違うチャンネルの音が再生される。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカー用ケーブルが正しく接続されていない。	ケーブルを正しく接続してください。
	サラウンドモードで STEREO が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードでSTEREOが選択されている場合は、センタースピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてCENTER：NONE が設定されている。	セットアップメニューにて正しい設定（LARGEもしくはSMALL）にしてください。
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードで STEREO が選択されている。	他のサラウンドモードを選択してください。サラウンドモードでSTEREOが選択されている場合は、サラウンドスピーカーから音声は出ません。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSL & SR：NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにて正しい設定（LARGEもしくは SMALL）にしてください。
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックスピーカーケーブルが正しく接続されていない。	「各機器との接続」の章を参考に、正しく接続してください。
	サラウンドモードでEX/ES、Neo:6、CS Ⅱ以外が選択されている。	サラウンドバック再生可能なモードを選択してください。
	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B：NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B：YESに設定してください。
サブウーファーから音が出ない。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SUB W：NONE が設定されている。	セットアップメニューの SPEAKER SETUP にて SUB W：YES に設定してください。
サラウンドモードが変えられない。	PHONES 端子にヘッドホーンが接続されている。	ヘッドホーンを外す。（ヘッドホーンが接続されている間は、サラウンドモードは STEREO の設定になります。）
EX/ES モードが選択できない。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B：NONE が設定されている。	セットアップメニューのSPEAKER SETUPにてSURR B：YESに設定してください。
	入力信号が対応していない。	各種 5.1ch 信号を選択して入力してください。
プロロジックⅡモードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
Neo:6 モードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
CS Ⅱ モードが選択できない。	入力信号が対応していない。	各種 2ch 信号を選択して入力してください。
DTS 信号のある CD やLD からノイズが出る。	アナログ入力にて使用している。	再生機器がデジタル出力できることを確認して、デジタル入力を設定してください。
	CD やLD プレーヤーがDTS 信号の出力に対応していない。	プレーヤー側を確認してください。
96kHzPCM 信号が再生できない。	プレーヤーが 96kHz PCM 信号の出力に対応していない。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	ディスクにて 96kHz PCM 出力が禁止されている。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
	DVD プレーヤーのデジタル出力設定が誤っている。	DVD プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
AAC 信号が再生できない	BS デジタルチューナーのデジタル出力設定が誤っている。	BS デジタルチューナーの取扱説明書を参照して下さい。
特定のスピーカーから音が出ない。	対象の信号が記録されていない。	どのスピーカーを使うサラウンド信号が記録されているか、出力側のチャンネルを確認してください。
リモコンの表示部が出ない。	リモコンの電池が切れている。	全て新しい電池と取り替える。
リモコンを使って本機の操作ができない。	リモコンが違う動作モードになっている。	AMP モードを選択してください。
	リモコンと本機の間が離れ過ぎている。	本機に近付いて、リモコンを操作してください。
	リモコンと本機の間に、リモコンからの信号を妨害する物がある。	信号を妨害している物を取り除いてください。
ビデオ信号が出力されない。	VIDEO － OFF 機能が働いている。	VIDEO － OFF 機能を解除する。

異常動作のときは

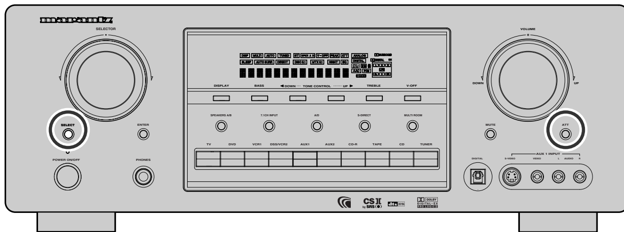
本機の前面表示部に異常な表示などを継続している場合、すぐに主電源を切って下さい。
再度電源を入れても症状が変わらない場合、電源コードを抜いてください。
その後、お買い上げになった販売店もしくはお近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談下さい。

メモリバックアップについて

本機の主電源を切った状態でも、設定した各種内容を内部不揮発性メモリーに記憶しております。

初期状態に戻すには（リセット）

「故障かな?と思ったときは」を参考にされても、不具合が解決しない場合は、本機のリセットを試みてください。
但し、リセット行うと、以下の情報が消去されます。
セットアップメニューにて設定した内容、サラウンドモードの設定。



1. 電源が入っていることを確認します。

2. 本体の***SELECT***ボタンを押しながら、***ATT***ボタンを3秒以上押します。

本機は一旦スタンバイ状態になった後、再度POWER－ON状態となり、各種設定された内容が初期化され、工場出荷の状態に戻ります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。

保証書は「販売店・お買い上げ日」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。

2. 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

お買い上げ販売店、または弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無料修理」いたします。

3. 保証期間経過後の修理。

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4. 弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低8年間保有しています。

5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または弊社営業所・サービスセンターに遠慮なくご相談ください。

6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度「故障と思ったときは」をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときには、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）品　名　AV サラウンドアンプ

2）品　番　PS7300

3）お買上げ日　　年　　月　　日

4）故障の状況　（できるだけ具体的に）

5）ご住所

6）お名前

7）電話番号

仕　様

オーディオ パワーアンプ部

定格出力（20 Hz - 20 kHz ／THD＝0.08%）
- フロント .... L/R105 W/CH 8Ω
- センター .... 105 W/CH 8Ω
- サラウンドL/R .... 105 W/CH 8Ω
- サラウンドバック .... 105 W/CH 8Ω
- フロントL/R .... 130 W/CH 6Ω
- センター .... 130 W/CH 6Ω
- サラウンドL/R .... 130 W/CH 6Ω
- サラウンドバック .... 130 W/CH 6Ω

実用最大出力（1kHz ／JEITA）
- フロントL/R .... 160 W/CH 6Ω
- センター. .... 160 W/CH 6Ω
- サラウンドL/R .... 160 W/CH 6Ω
- サラウンドバック .... 160 W/CH 6Ω

出力帯域幅（50W / 0.09%） .... 6 Hz – 50 kHz
（ダイレクト 入力）
周波数特性 .... 5 Hz –100 kHz（+/–3 dB）
（ダイレクト 入力）
S/N比（ダイレクト 入力） .... 105 dB
ダンピングファクター 100
入力感度/インピーダンス .... 175mV/47 kΩ

デコーダー＆プリアンプ部

再生対応信号フォーマット .... PCMオーディオ（fs=32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz）、DOLBY DIGITAL、DOLBY DIGITAL EX.、DTS、DTS-ES、DTS96/24、ACC
周波数特性X
（アナログ入力：ソースダイレクトモード）
.... 5 Hz -100 kHz（+/-3 dB）
（デジタル入力：PCM 96 kHz）
.... 5 Hz - 45 kHz（+/-3 dB）
S/N比（ソースダイレクトモード：20kLPF＆ A-weight）
.... 104 dB

ビデオ部

信号方式 .... NTSC
入力･出力インピーダンス .... 75 Ω
入出力レベル（100%） .... 1 Vp-p
S/N比 60 dB
周波数特性 .... 5 Hz –10 MHz（–3dB）
（Video、S-Video ）
周波数特性 .... 5 Hz –45 MHz（–3dB）
（コンポーネントVideo）

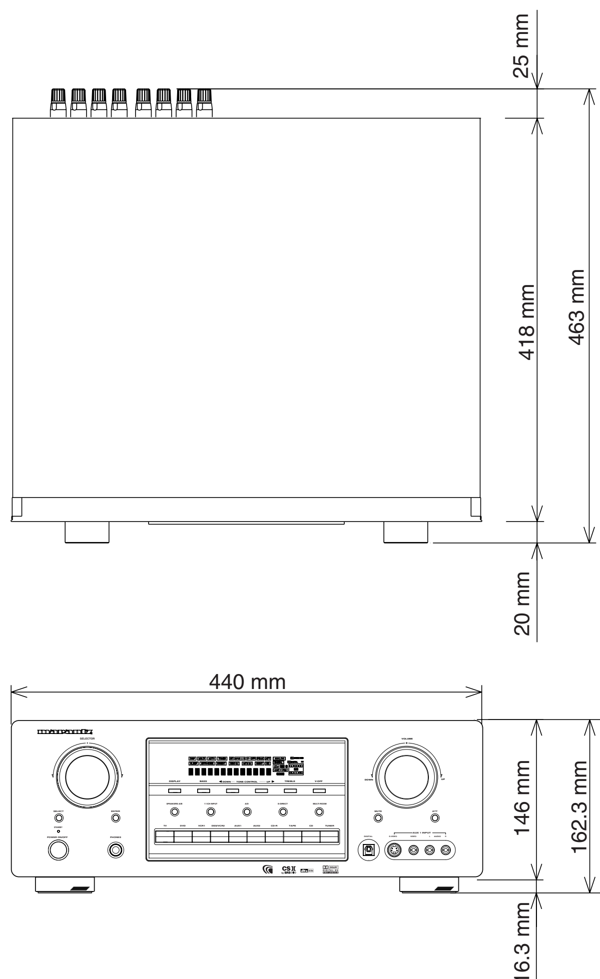
総合

電源電圧 .... AC 100 V 50/60 Hz
消費電力 .... 480 W
スタンバイ消費電力 .... 0.6 W
最大外形寸法
- 幅 .... 463.0 mm
- 高さ .... 162.3 mm
- 奥行き .... 440.0 mm

重量 .... 14.7 kg

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

外観寸法図



marantz®

日本マランツお客様ご相談センター

〒150-0022　東京都渋谷区恵比寿南1-11-9

☎ (03)　3719-3481

ご相談受付時間
9：30ー12：00　13：00ー17：00
（土　日　祝日、当社休日を除く）

○　修理に関しましては下記　日本マランツ（株）各サービスセンター、各営業所で承っております。

● 札幌　営業所	〒060-0032	北海道札幌市中央区北二条東7-82	☎ (011)　231-5776
● 仙台　営業所	〒982-0011	宮城県仙台市太白区長町6-8-40	☎ (022)　308-3566
● 東京　営業所	〒150-0022	東京都渋谷区恵比寿南1-11-9	☎ (03)　3793-5721
● 神奈川営業所	〒228-8505	神奈川県相模原市相模大野7-35-1	☎ (042)　748-1245
● 名古屋営業所	〒465-0024	愛知県名古屋市名東区本郷2-75	☎ (052)　776-5073
● 大阪　営業所	〒564-0053	大阪府吹田市江の木町2-31	☎ (06)　6337-6504
● 広島　営業所	〒732-0814	広島県広島市南区段原南2-12-27	☎ (082)　262-1265
● 福岡　営業所	〒812-0014	福岡県福岡市博多区比恵町1-18	☎ (092)　441-9131
● 東京サービスセンター	〒228-8505	神奈川県相模原市相模大野7-35-1	☎ (042) 748-0762
● 大阪サービスセンター	〒564-0053	大阪府吹田市江の木町2-31	☎ (06)　6337-6699

日本マランツ株式会社
本社　〒228-8505　神奈川県相模原市相模大野7-35-1

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。
http://www.marantz.co.jp

Printed in Japan　　この取扱説明書は、再生紙を使用しています。　　2002/11　MITh　03AJ851110